

### 第3節 自然的状況

#### 3-1 気象の状況

長野県の中央部に位置する諏訪市及び茅野市周辺は、四方を山々に囲まれた盆地であり、気温の較差が大きく、降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地である。また、年間を通じて晴天が多く、国内でも有数の日照時間が多い地域となっている。

対象事業実施区域には地域気象観測所はなく、最寄りの気象観測所は諏訪気象観測所である。気象観測結果を表 2-3-1 に、平均気温及び降水量の月別の平年値を図 2-3-1、気象観測所の位置図を図 2-3-2 に、諏訪気象観測所における風配図を図 2-3-3 に示す。

諏訪気象観測所による観測結果では、年平均気温は 11.1℃、年平均風速は 3.1m/s、年平均降水量は 1,281.0 mm である。

表 2-3-1 気象観測結果

年月	平均気温 (°C)		平均風速 (m/s)		最多風向 (16 方位)		降水量の合計 (mm)	
	平年値	2014	平年値	2014	平年値	2014	平年値	2014
1月	-1.3	-1.6	2.9	3.1	西北西	西北西	43.9	35.5
2月	-0.6	-1.6	3.5	4.3	西北西	西北西	51.4	58.5
3月	3.4	3.7	3.6	3.8	西北西	西北西	90.2	131.5
4月	9.9	9.7	3.8	3.7	西北西	西北西	87.2	46.5
5月	15	15.4	3.4	3.3	南東	西北西	113.9	59.5
6月	19	19.9	2.8	2.9	南東	南東	164.2	116.5
7月	22.7	23.2	2.7	2.7	西北西	南東	191.4	318
8月	23.8	23.2	2.8	2.6	南東	西北西	129.3	186
9月	19.5	18.1	3	3.1	西北西	西北西	192.2	55
10月	12.9	13.2	3	3.2	西北西	西北西	112.3	174
11月	6.9	7.9	2.8	2.9	西北西	西北西	69.8	91
12月	1.7	0.4	3	3.2	西北西	西南西	35.4	97.5

注) 平年値は、1981～2010年までの30年間の統計によるものを示す。

出典：気象庁ウェブサイト「気象統計情報」

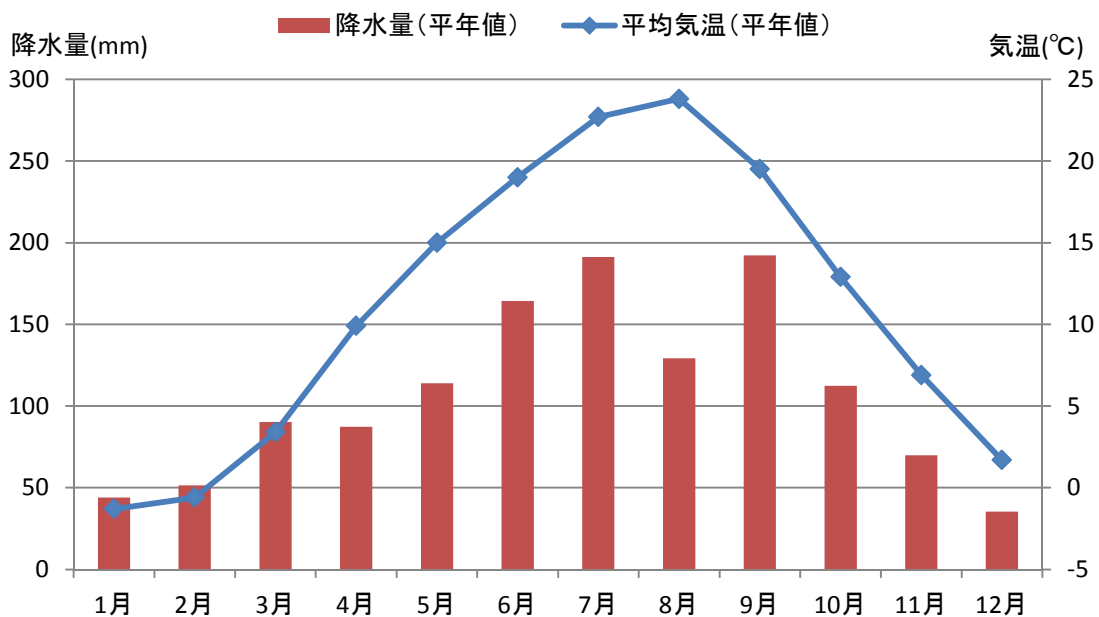
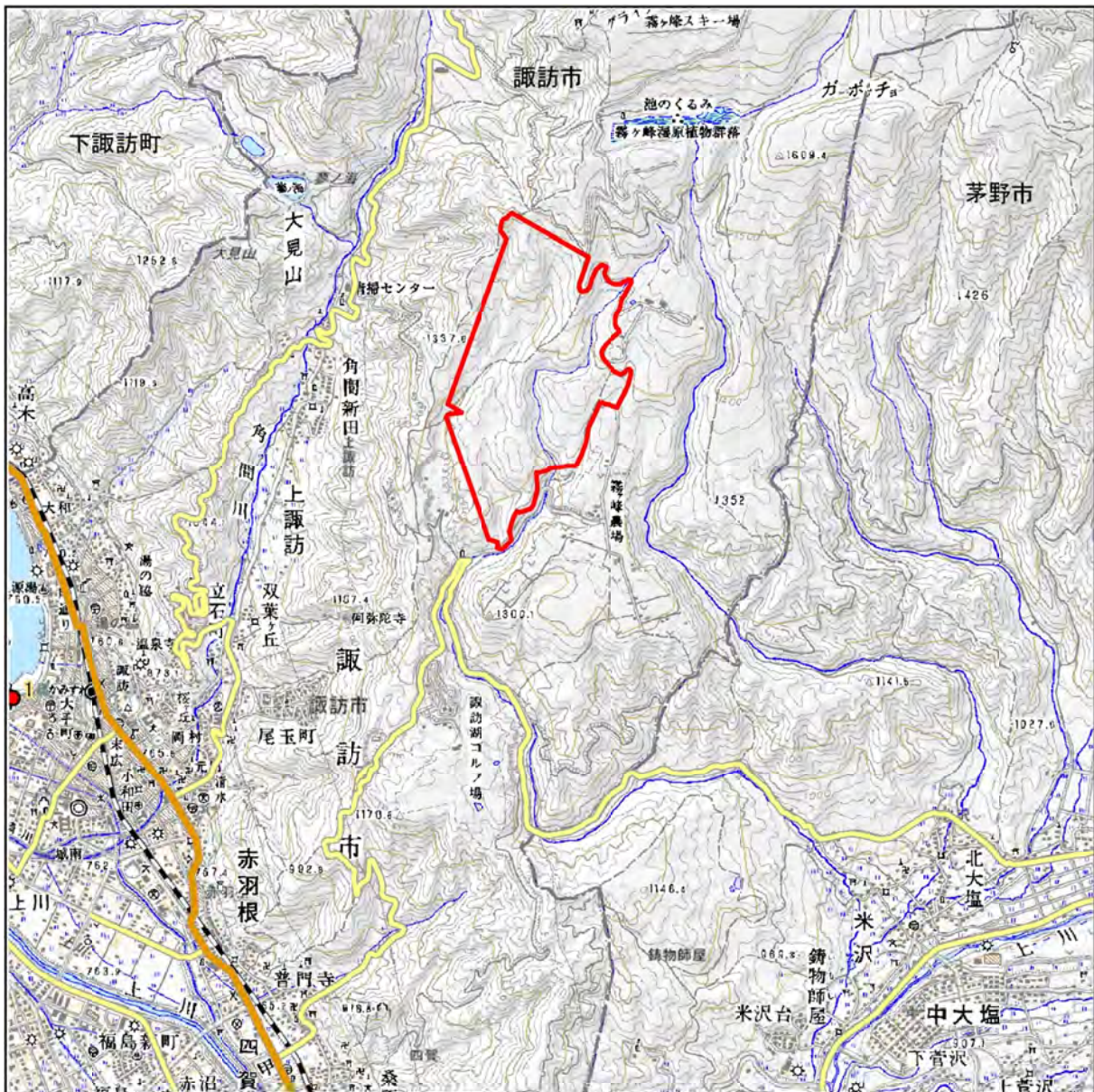


図 2-3-1 諏訪気象観測所における月別の平均気温降水量

出典：気象庁ウェブサイト「気象統計情報」



凡例

- 対象事業実施区域
- 気象観測位置

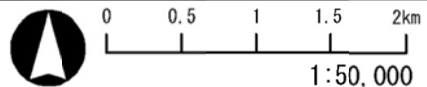
図 2-3-2  
気象観測位置

出典：長野県ウェブサイト  
「長野県統合型地理情報システム」



図 2-3-3 諏訪気象観測所における風配図

注) 1981~2010年の平均値  
静穏：風速 0.2m/s 未満の風の割合  
出典：東京管区気象台ウェブサイト



1:50,000

## 3-2 水象の状況

### 1. 河川

対象事業実施区域及びその周辺における一級河川の概要を表 2-3-2 に示す。また、河川・湖沼・ため池の状況を図 2-3-4 に示す。

対象事業実施区域の南側を流れる上川は、八ヶ岳連峰丸山を源として、茅野市及び諏訪市を蛇行しながら西に流下し、途中、角名川、滝の湯川、音無川、茅野横河川、柳川を合流しながら、諏訪湖に注いでいる。

対象事業実施区域は上川の流域に該当し、区域内を流れる水は南東方向へ流下して茅野市米沢地籍で上川に合流する。

また、対象事業実施区域の北側には、上川の支流角間川が北から南西方向へ流れているが、流域が異なるため対象事業実施区域からの流下はない。

表 2-3-2 主要な河川の概要（一級河川）

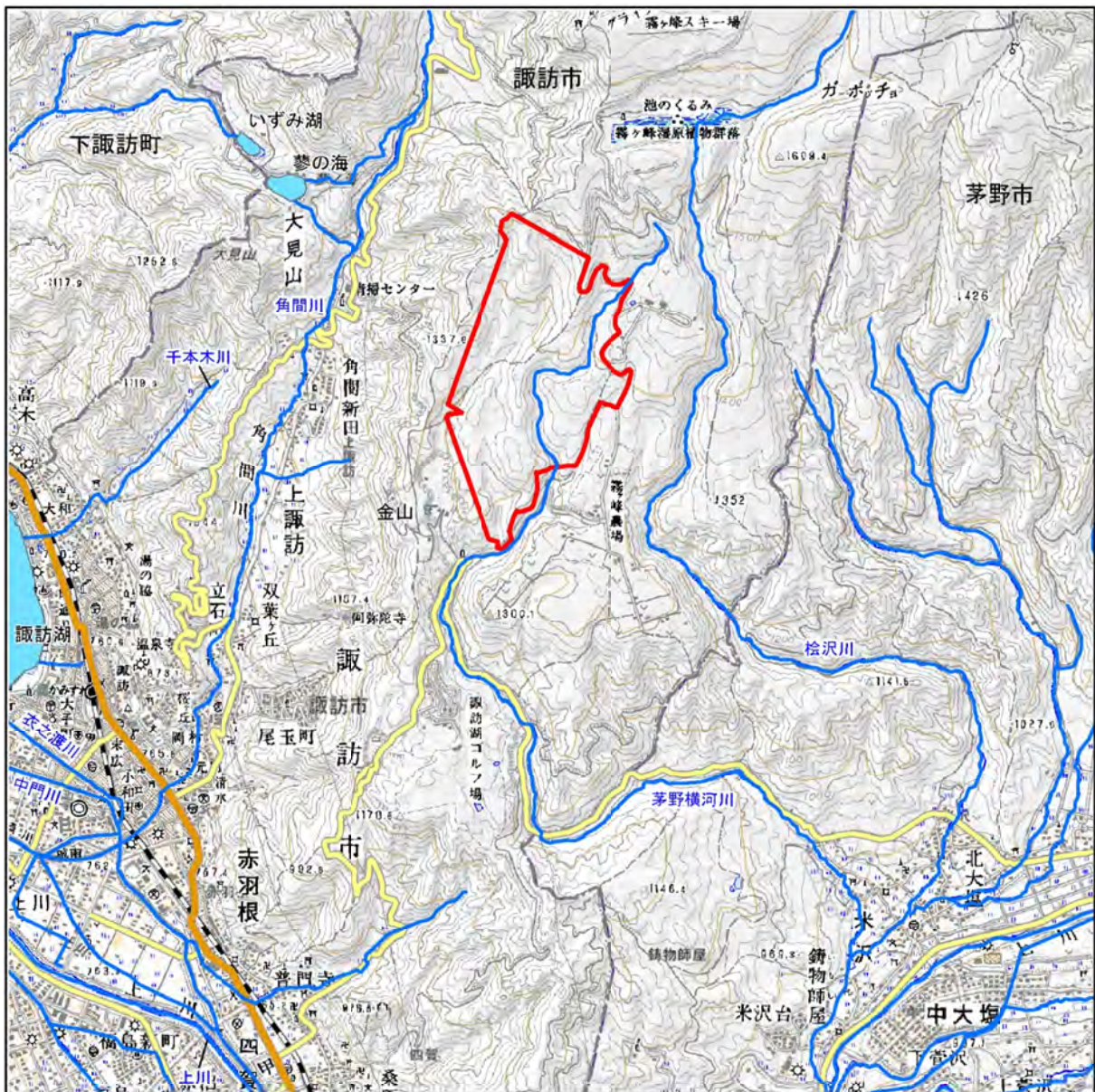
河川名	区間		河川延長 (m)
	上流端	下流端	
上川	茅野市大字冷山 5520 番地先	諏訪湖への合流点	40,984
茅野横河川	茅野市米沢字外久保 5929 番地先の市道橋	上川への合流点	2,700

出典：「河川調書」（平成 11 年、長野県）

### 2. 湖沼・ため池

対象事業実施区域周辺には、北側を流れる上川の支流角間川の上流に、ため池である蓼の海が存在する。また流域は異なるものの、蓼の海に隣接していずみ湖が存在する。

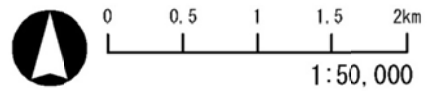
また、対象事業実施区域の西南方向には、諏訪湖が存在している。



凡例

- 対象事業実施区域
- 河川等
- 湖沼・ため池

図 2-3-4  
河川・湖沼・ため池の状況



### 3-3 地象の状況

#### 1. 地形

対象事業実施区域及びその周辺における地形分類を図 2-3-5 に示す。

対象事業実施区域は、霧ヶ峰火山に由来する火山地の山腹緩斜面及び山麓緩斜面に分類され、周辺は火山地の他、砂礫台地や扇状地、谷底平野、三角州等が分布する。

#### 2. 地質

対象事業実施区域及びその周辺における表層地質を図 2-3-6 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、火山性岩石である安山岩質岩が広く分布している。対象事業実施区域の西側と、東南側の谷部は崩壊堆積物が、南西側の低地は河成堆積物がそれぞれ分布している。

#### 3. 注目すべき地形地質

「日本の地形レッドデータブック（第1集）危機にある地形」（2000年、古今書院）によると、対象事業実施区域及びその周辺には保存すべき地形はない。

#### 4. 地すべり及び崩壊等の発生状況

調査範囲における土砂災害等危険箇所は、「環境関連法規制」の項で示したとおりであり、対象事業実施区域の西側近辺は、土石流に係る土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されているが、対象事業実施区域は指定されていない。

#### 5. 災害履歴等

「平成 18 年 7 月 15 日から 19 日にかけての長野県内の大雨に関する気象速報」（長野地方気象台、2006 年 9 月 6 日）によると、平成 18 年 7 月中旬後半から下旬にかけて梅雨前線の活動が活発化し、長野県では記録的な大雨となった。この大雨により、県内各地で土砂災害等が発生し、死者・行方不明者 13 名、重軽傷者 20 名を数え、総被害金額は約 557 億円に達した。

調査範囲では、表 2-3-3 に示すとおり、諏訪市及び茅野市に被害が生じた。

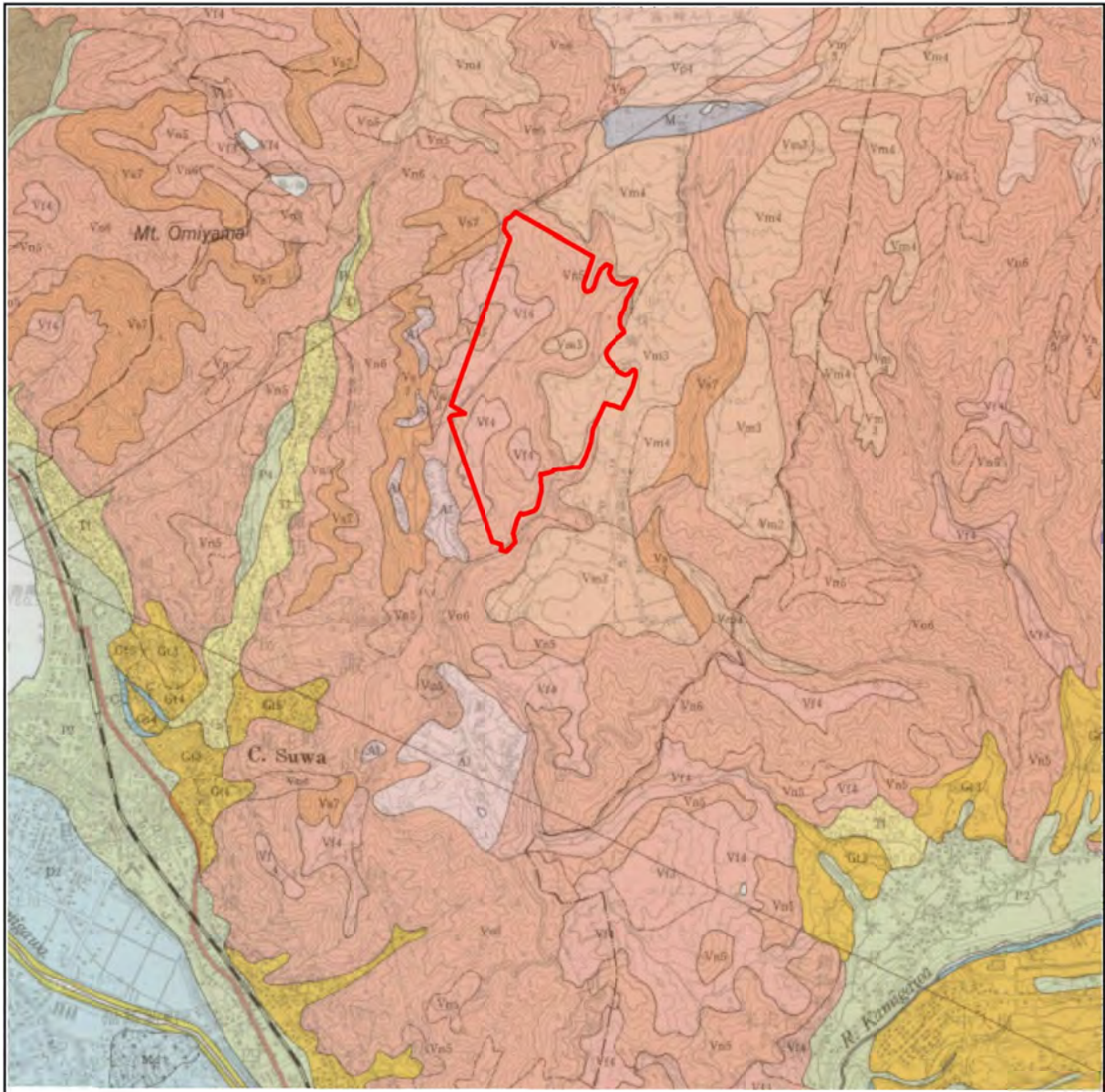
表 2-3-3 災害発生状況

単位 棟

区分	全壊		半壊		一部破損		床上浸水		床下浸水	
	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家
諏訪市							548	20	1,461	41
茅野市	1						9		6	

注) 人的被害なし。

出典：「平成 18 年 7 月 15 日から 19 日にかけての長野県内の大雨に関する気象速報」（長野地方気象台、2006 年 9 月 6 日）



凡 例


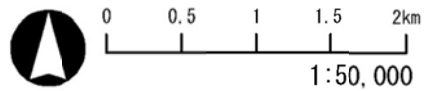
 対象事業実施区域

図 2-3-5(1)  
地形分類の状況

出典：「土地分類図（地形分類図）長野県」  
（昭和 49 年、経済企画庁）

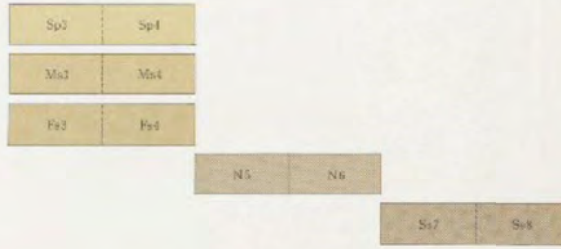


凡 例 LEGEND

傾斜区分	1	2	3	4	5	6	7	8
------	---	---	---	---	---	---	---	---

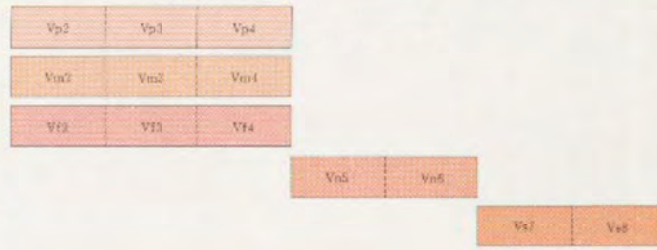
山 地 MOUNTAINS

- 山頂緩斜面 (15°未満)  
Gentle slope on mountain ridge
- 山腹緩斜面 (15°未満)  
Gentle slope on mountain side
- 山麓緩斜面 (15°未満)  
Gentle slope on mountain foot
- 一般斜面 (15°~30°)  
General slope on mountain
- 急斜面 (30°以上)  
Steep slope on mountain



火山地 VOLCANIC LANDFORMS

- 山頂緩斜面 (15°未満)  
Gentle slope on mountain ridge
- 山腹緩斜面 (15°未満)  
Gentle slope on mountain side
- 山麓緩斜面 (15°未満)  
Gentle slope on mountain foot
- 一般斜面 (15°~30°)  
General slope on mountain
- 急斜面 (30°以上)  
Steep slope on mountain



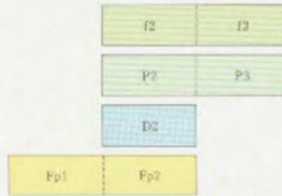
台地・段丘 UPLANDS AND TERRACES

- 砂礫台地  
Gravelly terrace



低 地 LOWLANDS

- 扇状地  
Fan
- 谷底平野  
Valley plain
- 三角洲  
Delta
- 河原  
River bed



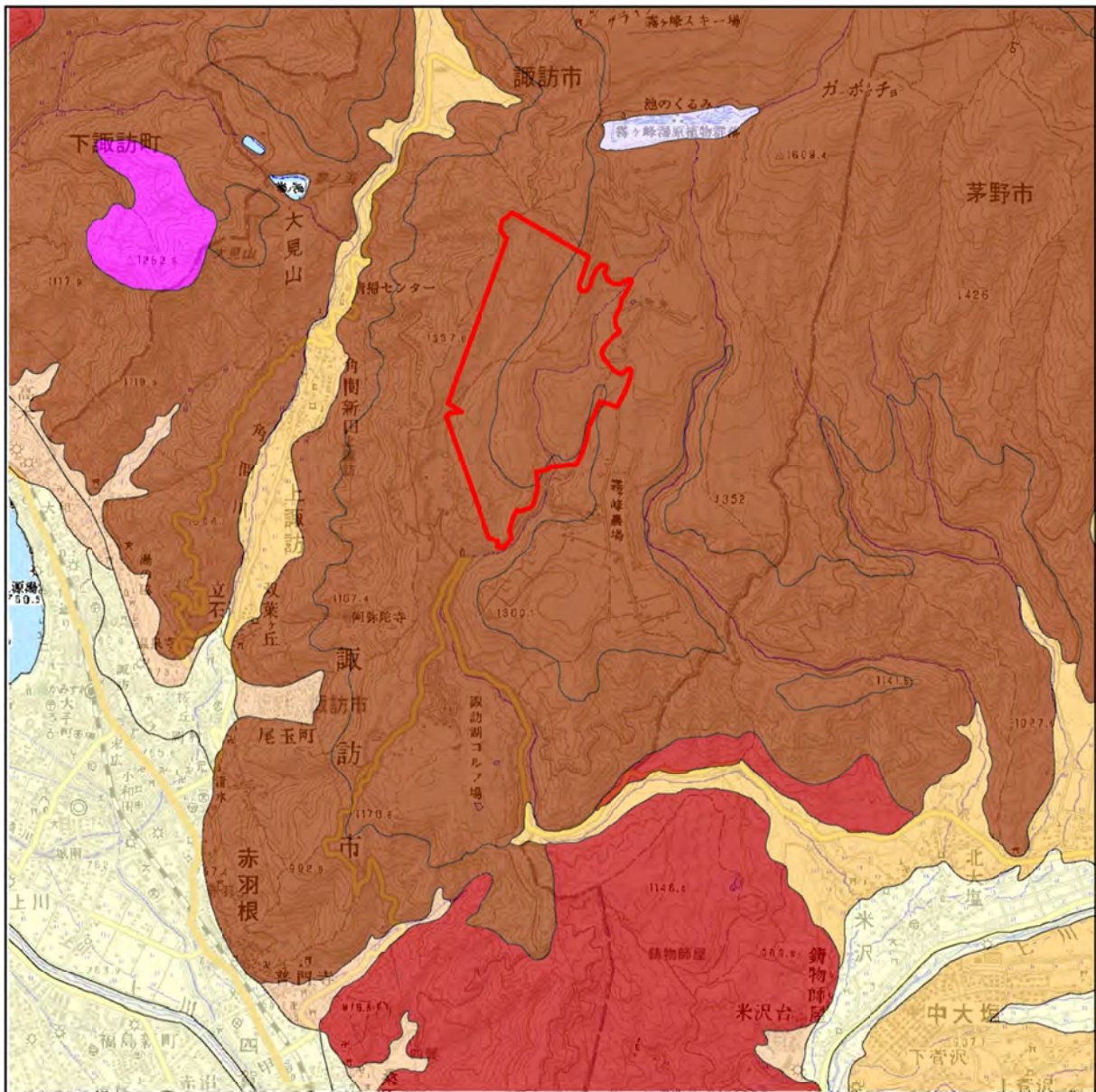
その他 MISCELLANEOUS

- 崩壊地形  
Landform due to land slide
- T1  
堆 錐  
Talus cone
- C  
崖  
Cliff
- AI  
人工改変地  
Artibication transformed land
- Md  
微高地 (自然堤防)  
Slightly higher land (Natural bank)
- M  
湿 地  
Wet land
- 河川、湖沼  
River and pool
- [ ]  
遷移点  
Break of slope
- 地形界  
Boundary of landform
- 高速自動車国道
- 一般国道
- J R 線
- 郡市界
- 町村界




図 2-3-5(2)  
地形分類の状況 (凡例)

出典：「土地分類図 (地形分類図) 長野県」  
(昭和 49 年、経済企画庁)



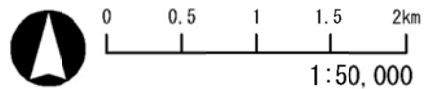
凡例

 対象事業実施区域

-  中性岩
-  土石流堆積物を含む
-  安山岩質岩
-  崩壊堆積物
-  河成堆積物
-  湖成堆積物
-  珪長質岩
-  苦鉄質～超苦鉄質

図 2-3-6  
表層地質の状況

出典：「長野県デジタル地質図 2015」





### 3-4 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

対象事業実施区域及びその周辺地域の動植物及び植生、生態系の状況を整理するのにあたり、表 2-3-4 に示す既往文献を収集整理するとともに、予備調査を実施した。

予備調査の実施状況について表 2-3-5 に示す。予備調査は、動物の哺乳類及び鳥類と植物を対象として実施した。

表 2-3-4(1) 動植物に関する既往文献

文献番号	文献名	発行年	著者等	植物	哺乳類	鳥類	魚類	両生類	爬虫類	昆虫類	クモ類・貝類
1	霧ヶ峰における自然環境の保全と再生に関する調査研究	2006	長野県環境保全研究所	○		○	○	○		○	
2	長野県植物研究会誌 第46号	2013	長野県植物研究会	○							
3	霧ヶ峰の植物目録	1981	諏訪市教育委員会	○							
4	諏訪の植物—身近に見られる植物を中心に—	1989	諏訪教育委員会	○							
5	霧ヶ峰八ヶ岳の植物	1989	信濃毎日新聞社	○							
6	諏訪の自然誌 植物編	1981	諏訪教育委員会	○							
7	諏訪湖周辺における鳥類の生息状況とその環境への影響	1993	長野県林務部			○					
8	諏訪湖周辺における鳥類の生息状況とその環境への影響	1985	長野県林務部			○					
9	長野県鳥類目録 3 —繁殖鳥類分布図—	1999	日本野鳥の会長野支部			○					
10	長野県鳥類目録 —1972～1978年の記録—	1979	日本野鳥の会長野支部			○					
11	諏訪の自然誌 動物編	1978	諏訪教育委員会		○	○	○	○	○	○	
12	信州の蝶	1996	信濃毎日新聞社							○	
13	2009年本州中部におけるコウベモグラの分布北東端、特に長野県における北端50年間の変化	2010	日本哺乳類学会		○						
14	下諏訪町の環境の現状と課題 (諏訪湖周辺複数分類群の情報集約)				○						
15	霧ヶ峰・白樺湖高原の小型哺乳類相 (1974)				○						
16	茅野市史 別巻 自然	1986	茅野市		○		○	○	○	○	
17	長野県鳥類目録 2 —100年の記録— 1991	1991	日本野鳥の会長野支部			○					
18	長野県植物誌	1997	長野県植物誌編集委員会	○							
19	長野県諏訪地方におけるカヤネズミの生息状況について (「生長」35巻1号57-68.)	1996	両角徹郎, 両角源美		○						
20	諏訪の自然誌 陸水編	1982	諏訪教育委員会							○	○
21	長野県魚貝図鑑	1980	信濃毎日新聞社				○				
22	準絶滅危惧種オナガレトビケラ <i>Himalopsyche japonica</i> MORTON の生態と長野県内における分布状況 (塩尻市立蝶の博物館紀要 5: 24-33)	2003	鶴石達							○	

表 2-3-4(2) 動植物に関する既往文献

文献番号	文献名	発行年	著者等	植物	哺乳類	鳥類	魚類	両生類	爬虫類	昆虫類	クモ類・貝類
23	長野県レッドリスト 2015 (動物編)	2015	長野県環境部自然保護課・長野県環境保全研究所							○	○
24	第3回自然環境保全基礎調査湖沼調査報告書北陸・甲信越	1987	環境省				○				
25	諏訪湖流入河川におけるアマゴおよびヤマトイワナの個体群構成と性成熟 (長野県自然保護研究所紀要 2:77-83)	1999	北野聡・久保田伸三.				○				
26	平成14年度河川水辺の国勢調査報告書	2003	諏訪建設事務所				○				
27	諏訪湖魚類目録を検証する (長野県水産試験場研究報告 第9号: 7-15)	2007	武居薫				○				
28	長野県におけるホトケドジョウの分布・生息環境およびミトコンドリア DNA ハプロタイプ (長野県環境保全研究所研究報告 4:45-50)	2008	北野聡・山形哲也・柳生将之・小林尚・上原武則・市川寛・美馬純一・小林建介				○				
29	長野県版レッドデータブック 動物編	2004	長野県生物多様性研究会・長野県自然保護研究所								○
30	霧ヶ峰周辺の両生類相 (第1報) (諏訪湖教育会自然研究紀要 19:67-69)	1983	下山良平					○			
31	諏訪地方の両生類・爬虫類 (I) (諏訪教育会自然研究紀要 20:80-83)	1984	下山良平					○	○		
32	諏訪地方の両生類・爬虫類 (II) (諏訪教育会自然研究紀要 21:102-103)	1985	下山良平					○	○		
33	霧ヶ峰周辺河川の魚類分布について-桧沢川調査中間報告(諏訪教育会自然研究紀要 19:74-75)	1983	竹松俊幸				○				
34	霧ヶ峰周辺河川の魚類分布について-桧沢川上流調査(諏訪教育会自然研究紀要 20:77-79)	1984	竹松俊幸				○				
予備調査	メガソーラー発電事業に伴う環境調査及び環境保全対策の検討報告書	2015	(株) Loop	○	○	○					

表 2-3-5 予備調査の実施状況

調査項目	平成 25 (2013) 年					平成 26 (2014) 年					平成 27 (2015) 年				
	8月	9月	10月	11月	12月	4月	5月	6月	7月	10月	4月	5月	6月	7月	8月
植物調査															
植生・草本類の調査	○	○													
県指定希少野生植物調査												○	○	○	○
鳥類調査	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
その他調査															
哺乳類の足跡、食痕等調査										○					

## 1. 動物

### ① 動物相の概要

対象事業実施区域及びその周辺地域は、主にカラマツ植林、アカマツ林、落葉広葉樹林などの森林となっており、湿原や草原も点在している。対象事業実施区域内には、小河川が流れ、河川周辺には湿地も存在する。

既往文献及び予備調査（平成 25～26 年、哺乳類及び鳥類のみ実施）では、森林域や草原に生息する哺乳類としてノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、テン、ホンドジカ、鳥類として、キジ、ノスリ、アカゲラ、ヒガラ、キビタキ、ノビタキ、ノジコ、爬虫類として、ニホンカナヘビ、ヤマカガシ、昆虫類としてアサギマダラ、クジャクチョウ、ミヤマカラスアゲハ、ヒメキマダラヒカゲなどが記録されている。

対象事業実施区域及びその周辺地域の河川上流域に生息する可能性がある魚類としては、イワナ（ヤマトイワナ）、両生類としては、ハコネサンショウウオ、ヤマアカガエル、昆虫類としては、トビケラ類やカワゲラ類の記録がある。

湿原に生息するトンボ類として、既往文献ではアオイトトンボ、クロイトトンボ、ルリボシヤンマなどの記録がある。

調査範囲内で記録されている記載種を表 2-3-6～2-3-13 に示す。

表 2-3-6 調査範囲内で記録されている種（哺乳類）

目名	科名	種名	文献						予備調査 (現地)	注目すべき種	
			11	13	14	15	16	19			
モグラ目（食虫目）	トガリネズミ	ホンシュウトガリネズミ	○		○					○	
		ジネズミ	○		○		○				
		カワネズミ	○				○			○	
	モグラ	ヒメヒミズ	○								
		ヒミズ	○		○	○					
		ミズラモグラ	○							○	
		アズマモグラ	○		○	○	○				
コウベモグラ			○								
コウモリ目 (翼手目)	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○				○				
	ヒナコウモリ	シナノホオヒゲコウモリ	○							○	
		モモジロコウモリ	○								
		アブラコウモリ	○				○				
		ヤマコウモリ	○		○		○			○	
		ヒナコウモリ	○							○	
		ウサギコウモリ	○		○					○	
サル目（霊長目）	オナガザル	ニホンザル	○		○		○				
ウサギ目	ウサギ	ノウサギ	○		○		○				
ネズミ目（齧歯目）	リス	ニホンリス	○				○				
		モモンガ	○		○		○			○	
		ムササビ	○		○		○				
	ヤマネ	ヤマネ	○		○		○			○	
	ネズミ	ヤチネズミ	○			○	○				
		スミスネズミ	○				○				
		ハタネズミ	○		○	○	○				
		アカネズミ	○		○	○	○				
		ヒメネズミ	○		○	○	○				
		カヤネズミ							○		○
		ハツカネズミ	○		○		○				
		クマネズミ	○		○		○				
		ドブネズミ	○		○		○				
		ネコ目（食肉目）	クマ	ツキノワグマ	○		○		○		
イヌ	タヌキ	○		○		○					
	キツネ	○		○		○					
	イタチ	テン	○		○						
	イタチ	○		○		○					
	オコジョ	○		○		○				○	
	アナグマ	○		○		○					
	ジャコウネコ	ハクビシン			○						
ウシ目（偶蹄目）	イノシシ	イノシシ	○		○		○			○	
	シカ	ホンドジカ	○		○		○			○	
	ウシ	カモシカ	○		○		○			○	

表 2-3-7(1) 調査範囲内で記録されている種（鳥類）(1/4)

目名	科名	種名	文献							予備調査 (現地)	注目すべき種	
			1	7	8	9	10	11	16			17
キジ	キジ	ヤマドリ					○		○		○	
		キジ	○	○	○	○	○		○		○	
カモ	カモ	ヒシクイ				○						○
		マガン					○			○		○
		コクガン				○				○		○
		コハクチョウ		○	○		○			○		
		オオハクチョウ			○	○						
		アカツクシガモ				○	○			○		○
		オシドリ		○			○			○		○
		オカヨシガモ		○								
		ヒドリガモ		○	○		○					
		アメリカヒドリ					○					
		マガモ		○	○		○			○	○	
		カルガモ	○	○	○		○	○	○	○		
		ハシビロガモ		○			○			○		
		オナガガモ		○	○		○			○		
		シマアジ			○		○					
		トモエガモ								○		○
		コガモ		○	○		○			○		
		オオホシハジロ					○	○		○		
		ホシハジロ		○	○		○			○		
		アカハジロ								○		○
		キンクロハジロ			○		○			○		
		スズガモ		○			○			○		
		シノリガモ					○					
		ピロードキンクロ					○			○		
		ホオジロガモ					○			○		○
		ミコアイサ		○	○	○	○			○		
		カワアイサ			○		○			○		
ウミアイサ		○		○				○				
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		○	○		○	○	○	○		
		アカエリカイツブリ					○					
		カンムリカイツブリ		○	○							○
		ハジロカイツブリ		○			○			○		○
ハト	ハト	キジバト	○	○	○		○	○	○	○		
ペリカン	サギ	ヨシゴイ		○	○	○	○	○	○	○		○
		ゴイサギ		○	○		○	○	○			
		ササゴイ		○		○						○
		アマサギ		○	○		○			○		
		アオサギ		○			○			○		
		ダイサギ		○			○					
		チュウサギ			○		○	○	○	○		○
		コサギ		○	○	○	○		○			○
		ツル	クイナ	クイナ					○			○
ヒクイナ				○		○				○		
バン		○		○		○	○		○			
オオバン						○			○			
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ							○			
		ホトトギス					○	○			○	
		ツツドリ									○	
		カッコウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ				○					○	
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ					○					○
		アマツバメ		○	○		○			○	○	

表 2-3-7(2) 調査範囲内で記録されている種（鳥類）(2/4)

目名	科名	種名	文献							予備調査 (現地)	注目すべき種			
			1	7	8	9	10	11	16			17		
チドリ	チドリ	タゲリ		○	○							○		
		ケリ				○	○							○
		ムナグロ					○							
		ダイゼン			○									
		コチドリ		○	○		○					○		
		シロチドリ					○					○		○
		シギ	ヤマシギ					○						
	オオジシギ	○				○	○							○
	タシギ			○	○	○					○			
	オグロシギ				○	○					○			
	コシャクシギ					○	○				○			○
	チュウシャクシギ						○							
	ホウロクシギ						○					○		○
	ツルシギ			○			○					○		○
	アカアシシギ					○	○					○		○
	アオアシシギ					○	○					○		○
	クサシギ						○							
	タカブシギ				○	○	○					○		○
	キアシシギ						○							○
	イソシギ			○	○	○	○	○	○	○	○			
	トウネン						○							
	ウズラシギ							○						
	ハマシギ							○						○
	エリマキシギ						○							
	カモメ	クロアジサシ					○							
	シロアジサシ						○							
	ユリカモメ			○	○		○							
	ウミネコ						○	○				○		
	カモメ				○							○		
	セグロカモメ											○		
	コアジサシ							○						○
	マミジロアジサシ						○							
	タカ	ミサゴ	ミサゴ				○							○
タカ		ハチクマ									○		○	
トビ		○	○	○		○	○				○			
オジロワシ						○							○	
オオワシ						○					○		○	
ハイロチュウヒ						○								
ツミ							○	○			○		○	
ハイタカ							○					○	○	
オオタカ							○						○	
ノスリ		○		○	○	○	○					○		
クマタカ						○						○		
フクロウ	フクロウ	フクロウ				○								
		アオバズク				○							○	
		トラフズク				○	○						○	
サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ					○				○	○		
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○	○		○	○						
		ヤマセミ		○									○	
	ブッポウソウ	ブッポウソウ							○			○	○	
キツツキ	キツツキ	アリスイ			○	○						○		
		コゲラ	○			○		○				○		
		アカゲラ	○			○		○				○		
		アオゲラ						○				○		

表 2-3-7(3) 調査範囲内で記録されている種（鳥類）(3/4)

目名	科名	種名	文献							予備調査 (現地)	注目すべき種		
			1	7	8	9	10	11	16			17	
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○	○		○			○			
		ハヤブサ					○			○		○	
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○						○		○	○	
	カササギヒタキ	サンコウチョウ							○			○	
	モズ	チゴモズ								○			○
		モズ	○	○	○	○	○	○		○	○		
		アカモズ			○		○	○					○
	カラス	カケス	○			○	○	○				○	
		オナガ		○	○					○			
		ホシガラス				○							
		ハシボソガラス		○	○		○	○	○	○	○	○	
		ハシブトガラス	○	○	○	○	○			○	○	○	
	キクイタダキ	キクイタダキ										○	
	シジュウカラ	コガラ	○			○				○			○
		ヤマガラ								○			○
		ヒガラ	○			○				○		○	
		シジュウカラ			○	○	○	○	○		○	○	
	ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○	○	○			○	○	
	ツバメ	ツバメ	○	○	○		○	○				○	
		イワツバメ	○	○	○		○	○			○	○	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ		○	○		○	○	○			○	
	ウグイス	ウグイス	○	○						○		○	
ヤブサメ									○			○	
エナガ	エナガ	○			○			○			○		
ムシクイ	メボソムシクイ				○						○		
	エゾムシクイ					○							
	センダイムシクイ								○			○	
メジロ	メジロ							○			○		
ヨシキリ	オオヨシキリ		○	○	○	○	○	○		○			
	コヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○		○		○	
セッカ	セッカ						○				○		
レンジャク	ヒレンジャク				○								
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ				○	○	○				○		
キバシリ科	キバシリ										○		
ミソサザイ	ミソサザイ				○	○					○		
ムクドリ	ムクドリ		○	○	○	○	○	○	○	○			
	コムクドリ	○	○	○	○	○	○	○					
カワガラス	カワガラス		○	○		○							
ヒタキ	マミジロ								○			○	
	トラツグミ								○				
	クロツグミ	○			○				○			○	
	マミチャジナイ											○	
	アカハラ	○			○				○				
	ツグミ		○	○		○	○			○	○		
	コマドリ				○					○			
	コルリ								○				
	ルリビタキ	○										○	
	ジョウビタキ		○	○	○	○	○					○	
	ノビタキ	○	○	○		○	○			○	○	○	
	イソヒヨドリ					○				○			
	エゾビタキ											○	
	サメビタキ				○								
	コサメビタキ								○			○	
	キビタキ				○				○			○	
オオルリ								○			○		

表 2-3-7(4) 調査範囲内で記録されている種（鳥類）（4/4）

目名	科名	種名	文献							予備調査 (現地)	注目すべき種		
			1	7	8	9	10	11	16			17	
スズメ	イワヒバリ	イワヒバリ				○							
		カヤクグリ				○							
	スズメ	ニュウナイスズメ			○								
		スズメ		○	○	○	○	○	○				
	セキレイ	キセキレイ	○	○	○		○	○		○	○		
		ハクセキレイ		○	○		○			○			
		セグロセキレイ		○	○		○	○					
		ビンズイ	○			○		○		○	○		
	アトリ	タヒバリ		○	○		○				○		
		アトリ		○								○	
		カワラヒワ	○	○	○		○	○		○	○		
		マヒワ				○	○					○	
		ベニヒワ					○			○			
		ベニマシコ		○			○		○			○	
		イスカ										○	
		ウソ	○									○	
		シメ		○	○		○				○		
		イカル	○			○					○	○	
	ホオジロ	ホオジロ	○	○	○		○	○		○	○		
		ホオアカ	○			○	○	○		○			○
カシラダカ			○	○		○	○		○	○			
ミヤマホオジロ					○								
ノジコ					○		○				○	○	
アオジ		○	○	○	○	○	○		○	○			
コジュリン							○		○			○	
オオジュリン			○			○			○				
キジ	キジ					○		○					
ハト	ハト			○									
スズメ	カエデチョウ	ギンパラ						○					

表 2-3-8 調査範囲内で記録されている種（両生類）

目名	科名	種名	文献						注目すべき種
			1	11	16	30	31	32	
有尾	サンショウウオ	ハコネサンショウウオ	○	○	○	○	○		
	イモリ	アカハライモリ	○	○	○	○	○		○
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○	○	○	○		
	アマガエル	ニホンアマガエル		○	○		○		
		アカガエル	ニホンアカガエル		○				
	アカガエル	ヤマアカガエル	○	○	○	○	○		
		ウシガエル		○	○				
		トノサマガエル		○	○		○		○
		ツチガエル		○	○		○		○
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○	○	○			
カジカガエル			○						



表 2-3-9 調査範囲内で記録されている種（爬虫類）

目名	科名	種名	文献				注目すべき種
			11	16	31	32	
カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○				○
		クサガメ	○				
有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○			
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○			
	ナミヘビ	シマヘビ	○	○			
		アオダイショウ	○	○			
		ジムグリ	○	○			
		シロマダラ	○				○
		ヒバカリ	○	○			○
		ヤマカガシ	○	○			
	クサリヘビ	ニホンマムシ	○	○			

表 2-3-10(1) 調査範囲内で記録されている種（魚類）（1/2）

目名	科名	種名	文献											注目すべき種						
			1	16	21	24	25	26	27	28	33	34								
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類									○					○				
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		○	○	○					○					○				
コイ	コイ	コイ		○	○	○			○	○										
		ゲンゴロウブナ		○	○	○			○	○							○			
		ナガブナ				○			○	○								○		
		キンブナ				○			○	○								○		
		フナ類	○	○	○				○											
		ギンブナ				○			○	○										
		ゼニタナゴ			○	○					○							○		
		タイリクバラタナゴ		○	○	○				○	○									
		ニッポンバラタナゴ									○							○		
		ハクレン				○	○					○								
		オイカワ			○	○	○				○	○								
		カワムツ										○								
		ソウギョ				○	○					○								
		アブラハヤ			○	○	○					○								
		ウグイ			○	○	○				○	○								
		モツゴ			○	○	○				○	○								
		ビワヒガイ										○								
		ヒガイ類			○	○	○				○									
		タモロコ			○	○					○	○								
		スワモロコ										○						○		
		ホンモロコ				○	○					○						○		
		カマツカ			○	○	○					○								
		ニゴイ										○								
		ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ	○	○	○	○			○	○							○	
				シマドジョウ			○	○					○							
				ホトケドジョウ										○						○
		ナマズ	ギギ	ギギ								○								
ナマズ	ナマズ			○	○	○				○										
アカザ	アカザ			○	○					○							○			
サケ	キュウリウオ	ワカサギ		○	○	○			○	○										
	アユ	アユ		○	○	○				○							○			
	サケ	カワマス								○										
		ヤマトイワナ		○					○					○	○			○		
	アメマス類		○	○					○								○			

表 2-3-10(2) 調査範囲内で記録されている種（魚類）（2/2）

目名	科名	種名	文献										注目すべき種	
			1	16	21	24	25	26	27	28	33	34		
サケ	サケ	ニジマス		○	○	○			○					
		サクラマス(ヤマメ)		○										○
		サツキマス(アマゴ)	○	○	○	○	○		○		○	○		○
カダヤシ	カダヤシ	グッピー			○	○			○					
ダツ	メダカ	メダカ類			○	○			○				○	
カサゴ	カジカ	カジカ	○	○	○				○		○	○	○	
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル							○					
		オオクチバス			○			○	○					
		コクチバス							○					
	カワスズメ	ティラピア							○					
	ドンコ	ドンコ			○									
	ハゼ	ウキゴリ								○				
		ビリンゴ			○									
		ジュズカケハゼ				○		○	○					○
		アシシロハゼ							○					
		カワヨシノボリ							○					
		ゴクラクハゼ								○				
		旧トウヨシノボリ類							○	○				
		ヨシノボリ		○	○	○		○						
		ヌマチチブ								○				
	チチブ								○					
	タイワンドジョウ	カムルチー			○				○					

表 2-3-11(1) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（1/8）

目名	科名	種名	文献							注目すべき種	
			1	11	12	16	20	22	23		
カゲロウ (蜉蝣)	ヒメフタオカゲロウ	マエグロヒメフタオカゲロウ					○				
		ヒメフタオカゲロウ					○				
	コカゲロウ	シロハラコカゲロウ					○				
		フタバカゲロウ					○				
	ヒラタカゲロウ	キイロヒラタカゲロウ					○				
		ウエノヒラタカゲロウ					○				
		エルモンヒラタカゲロウ					○				
		ユミモンヒラタカゲロウ					○				
		ヒメヒラタカゲロウ					○				
	チラカゲロウ	チラカゲロウ					○				
	ヒトリガカゲロウ	ヒトリガカゲロウ					○				○
	トビイロカゲロウ	ヒメトビイロカゲロウ					○				
	モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ					○				
	カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ					○				
	マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ					○				
		オオマダラカゲロウ					○				
ヨシノマダラカゲロウ						○					
ミツトゲマダラカゲロウ						○					
	アカマダラカゲロウ					○					
トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	アオイトトンボ					○				
	イトトンボ	クロイトトンボ					○				
	ヤンマ	オオルリボシヤンマ					○	○			
		ルリボシヤンマ						○			
		ギンヤンマ					○				
	サナエトンボ	ダビドサナエ						○			
		ウチワヤンマ						○			
オニヤンマ	オニヤンマ					○	○				

表 2-3-11(2) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（2/8）

目名	科名	種名	文献							注目すべき種	
			1	11	12	16	20	22	23		
トンボ (蜻蛉)	エゾトンボ	オオトラフトンボ				○				○	
		オオヤマトンボ				○					
		タカネトンボ				○	○				
	トンボ	ショウジョウトンボ				○	○				
		コフキトンボ				○					
		カオジロトンボ					○				
		シオカラトンボ				○					
		アキアカネ					○				
	マイコアカネ				○						
カワゲラ (セキ翅)	トワダカワゲラ	トワダカワゲラ					○				
	クロカワゲラ	フタトゲクロカワゲラ					○				
		ミジカオクロカワゲラ					○				
	ホソカワゲラ	ハラジロオナシカワゲラ					○				
	オナシカワゲラ	モンオナシカワゲラ					○				
		アサカワオナシカワゲラ					○				
	ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ					○			○	
		ミヤマノギカワゲラ					○			○	
	ミドリカワゲラ	フタモンミドリカワゲラ					○				
		クロムネミドリカワゲラ					○				
		キブネミドリカワゲラ					○				
		ニッコウミドリカワゲラ					○				
	カワゲラ	ミツモンカワゲラ					○				
		モンカワゲラ					○				
		クロヒゲカワゲラ					○				
		カミムラカワゲラ					○				
		ヤマトカワゲラ					○				
		オオヤマカワゲラ					○				
		オオクラカケカワゲラ					○				
	アミメカワゲラ	コグサヒメカワゲラ					○				
		ミスジアミメカワゲラ					○				
		ヒロバネアミメカワゲラ					○				
	バッタ (直翅)	カマドウマ	マダラカマドウマ				○				
		ツユムシ	セスジツユムシ				○				
			ホソクビツユムシ					○			
			キリギリス	コバネヒメギス				○			
		ウスイロササキリ				○					
		オナガササキリ				○					
		コバネササキリ				○					
		ヒメギス				○					
		イブキヒメギス				○					
		クビキリギス				○					
		ヒガシキリギリス				○					
		ヒメクササキリ				○					
		クササキリ				○					
		ヤブキリ				○					
ケラ		ケラ				○					
マツムシ		カンタン				○					
コオロギ		タンボオカメコオロギ					○				
		ハラオカメコオロギ					○				
		ミツカドコオロギ					○				
		エンマコオロギ					○				
		ツヅレサセコオロギ					○				
ヒバリモドキ		カワラスズ					○				
		シバズ					○				
	エゾスズ					○					
	クロヒバリモドキ					○					

表 2-3-11(3) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（3/8）

目名	科名	種名	文献							注目すべき種
			1	11	12	16	20	22	23	
バッタ (直翅)	バッタ	ショウリョウバッタ				○				
		タカネヒナバッタ				○				
		クモヒナバッタ				○				
		カワラバッタ				○				
		ヒナバッタ				○				
		トノサマバッタ				○				
		イナゴモドキ				○				
		ナキイナゴ				○				
		クマバッタモドキ				○				
		ヒロバネヒナバッタ				○				
		イナゴ	コバネイナゴ				○			
	オンブバッタ	オンブバッタ				○				
ノミバッタ	ノミバッタ				○					
カメムシ (半翅)	セミ	アブラゼミ				○				
		ミンミンゼミ				○				
		チッチゼミ				○				
		コエゾゼミ				○				
		ヒグラシ				○				
		エゾハルゼミ				○				
		ハルゼミ				○				
	ミズムシ (昆)	コミズムシ					○			
	タイコウチ	ミズカマキリ					○			
		ヒメミズカマキリ					○			
マツモムシ	マツモムシ					○				
ヘビトンボ	ヘビトンボ					○				
アミメカゲロウ (脈翅)	ヒロバカゲロウ	ヒロバカゲロウ					○			
トビケラ (毛翅)	アミメシマトビケラ	シロフツヤトビケラ					○			
		シマトビケラ	コガタシマトビケラ					○		
			ギフシマトビケラ					○		
			ウルマーシマトビケラ					○		
	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ					○			
	ヤマトビケラ	イノブスヤマトビケラ					○			
	ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ						○		○
		ヒロアタマナガレトビケラ						○		
		ムナグロナガレトビケラ						○		
		トワダナガレトビケラ						○		
		ヤマナカナガレトビケラ						○		
	カクスイトビケラ	マルツツトビケラ					○			
	ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ					○			
	カクツツトビケラ	オオカクツツトビケラ						○		
		コカクツツトビケラ						○		
	ヒゲナガトビケラ	モリクサツミトビケラ					○			
	エグリトビケラ	セグロトビケラ						○		
		エグリトビケラ						○		
		ホタルトビケラ						○		
		オンダケトビケラ						○		
	キタガミトビケラ	キタガミトビケラ					○		○	
	フトヒゲトビケラ	ヨツメトビケラ						○		
		フタスジキソトビケラ						○		
		アミメトビケラ						○		
		マルバネトビケラ						○		
		Gumaga orientalis						○		
	クロツツトビケラ						○			

表 2-3-11(4) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（4/8）

目名	科名	種名	文献						注目すべき種	
			1	11	12	16	20	22		23
チョウ (鱗翅)	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	○	○	○	○				○
		キバネセセリ			○	○				
		アオバセセリ本土亜種		○	○	○				
		ダイミョウセセリ		○	○	○				
		ミヤマセセリ	○	○	○	○				
		アカセセリ	○	○	○	○				○
		ホソバセセリ	○	○	○	○				
		ギンイチモンジセセリ	○	○	○	○				○
		ヒメキマダラセセリ	○	○	○	○				
		コキマダラセセリ	○	○	○	○				
		イチモンジセセリ	○	○	○	○				
		ミヤマチャバネセセリ		○	○	○				○
		チャバネセセリ	○	○	○	○				
		オオチャバネセセリ	○	○	○	○				
		キマダラセセリ		○	○	○				
		チャマダラセセリ		○	○	○				○
		チャマダラセセリ（開田高原個体群）		○	○					○
		コチャバネセセリ	○	○	○	○				
		スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種	○		○	○				○
		ヘリグロチャバネセセリ	○	○	○	○				○
マダラチョウ	アサギマダラ	○	○	○	○					
テングチョウ	テングチョウ日本本土亜種	○	○	○	○					
シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ		○	○						
	ウスイロオナガシジミ		○	○	○					
	オナガシジミ		○	○	○					
	ウラゴマダラシジミ		○	○	○					
	ムラサキシジミ		○	○	○					
	コツバメ	○	○	○	○					
	ルリシジミ	○	○	○	○					
	スギタニルリシジミ本州亜種			○	○					
	アイノミドリシジミ		○	○	○					
	メスアカミドリシジミ		○	○	○					
	ウラギンシジミ	○	○	○	○					
	ツバメシジミ	○	○	○	○					
	エゾミドリシジミ		○	○	○					
	オオミドリシジミ		○	○	○					
	ウラジロミドリシジミ		○	○	○				○	
	ジョウザンミドリシジミ		○	○	○					
	ハヤシミドリシジミ		○	○	○					
	クロミドリシジミ		○	○	○					
	ミヤマカラスシジミ		○	○	○					
	カラスシジミ		○	○	○					
	ウラクロシジミ		○	○	○					
	アカシジミ		○	○	○					
	ウラナミアカシジミ		○	○	○				○	
	ウラナミシジミ		○	○	○					
	ベニシジミ	○	○	○	○					
	ミドリシジミ		○	○	○					
	クロシジミ				○				○	
	オオゴマシジミ			○					○	
	ゴマシジミ本州中部亜種	○	○	○	○				○	
	ヒメシジミ本州・九州亜種	○	○	○	○				○	
	ミヤマシジミ	○	○	○	○				○	
	アサマシジミ中部低地帯亜種	○	○	○	○				○	

表 2-3-11(5) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（5/8）

目名	科名	種名	文献						注目すべき種			
			1	11	12	16	20	22		23		
チョウ (鱗翅)	シジミチョウ	ヒメウラナミシジミ	○									
		トラフシジミ	○	○	○	○						
		オオルリシジミ本州亜種			○	○					○	
		ムモンアカシジミ		○	○	○					○	
		フジミドリシジミ		○		○						
		ゴイシシジミ	○	○	○	○						
		クロツバメシジミ東日本亜種				○					○	
		クロツバメシジミ				○					○	
		ウラキンシジミ				○	○					
		ウラミスジシジミ				○	○					
		ヤマトシジミ本土亜種		○	○	○						
	タテハチョウ	コヒオドシ				○	○					○
		コムラサキ	○	○	○	○						
		サカハチチョウ	○	○	○	○						
		ミドリヒョウモン	○	○	○	○						
		ツماغロヒョウモン	○	○	○							
		ウラギンスジヒョウモン	○	○	○	○						○
		オオウラギンスジヒョウモン			○	○	○					
		ヒョウモンチョウ本州中部亜種	○	○	○	○						○
		コヒョウモン本州亜種	○			○	○					
		メスグロヒョウモン	○	○	○	○						
		スミナガシ本土亜種			○	○	○					
		ウラギンヒョウモン	○	○	○	○						
		オオウラギンヒョウモン			○	○						○
		ゴマダラチョウ本土亜種			○	○	○					
		クジャクチョウ	○	○	○	○						
		ルリタテハ沖縄亜種	○	○	○							
		ルリタテハ本土亜種					○					
		イチモンジチョウ	○	○	○							
		アサマイチモンジ			○	○	○					
		オオイチモンジ					○					○
		コヒョウモンモドキ	○	○	○	○						○
		ヒョウモンモドキ			○	○						○
		クモガタヒョウモン			○	○						
		オオミスジ	○	○	○	○						
		ミスジチョウ			○	○	○					
		ホシミスジ東北・中部地方亜種					○					
		ホシミスジ	○	○	○							
		フタスジチョウ中部地方亜種			○	○	○					
		コムミスジ	○	○	○	○						
		キベリタテハ	○	○	○	○						
		エルタテハ	○	○	○	○						
		ヒオドシチョウ	○	○	○	○						
シータテハ	○	○	○									
キタテハ	○	○	○	○								
オオムラサキ			○	○	○					○		
ギンボシヒョウモン本州亜種	○	○	○	○								
ヒメアカタテハ	○	○	○	○								
アカタテハ	○	○	○	○								
ジャコウアゲハ本土亜種			○	○	○							
アオスジアゲハ				○	○							
ヒメギフチョウ本州亜種	○	○	○	○						○		
カラスアゲハ本土亜種	○	○	○	○								
モンキアゲハ			○	○	○							
ミヤマカラスアゲハ	○	○	○	○								

表 2-3-11(6) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（6/8）

目名	科名	種名	文献							注目すべき種	
			1	11	12	16	20	22	23		
チョウ (鱗翅)	アゲハチョウ	キアゲハ	○	○	○	○					
		オナガアゲハ	○	○	○	○					
		クロアゲハ本土亜種		○	○	○					
		アゲハ			○	○					
		ウスバシロチョウ	○	○	○	○					
	シロチョウ	クモマツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種				○				○	
		ツマキチョウ本土亜種	○		○	○					
		ミヤマシロチョウ			○	○				○	
		モンキチョウ	○	○	○	○					
		キチョウ	○	○	○	○					
		ツماغロキチョウ		○	○	○				○	
		スジボソヤマキチョウ	○	○	○	○					
		ヤマキチョウ		○	○	○				○	
		ヒメシロチョウ北海道・本州亜種		○	○	○				○	
		エゾスジグロシロチョウ		○	○	○					
		スジグロシロチョウ	○	○	○	○					
		モンシロチョウ	○	○	○	○					
		ジャノメチョウ	ヒメヒカゲ本州中部亜種			○					○
			クモマベニヒカゲ本州亜種				○				○
	ベニヒカゲ本州亜種					○				○	
	キマダラモドキ				○	○				○	
	ツマジロウラジャノメ本州亜種				○	○					
	クロヒカゲ本土亜種		○	○	○	○					
	クロヒカゲモドキ				○					○	
	ヒカゲチョウ		○	○	○	○					
	ウラジャノメ本州亜種		○		○	○					
	ジャノメチョウ		○	○	○	○					
	コジャノメ		○	○	○	○					
	ヒメジャノメ			○	○	○					
	サトキマダラヒカゲ			○	○	○					
	ヤマキマダラヒカゲ本土亜種		○		○						
	オオヒカゲ			○	○	○				○	
	タカネヒカゲ八ヶ岳亜種					○				○	
	ヒメウラナミジャノメ			○	○	○					
	ヒメキマダラヒカゲ		○		○	○					
	カギバガ	オビカギバ				○					
	アゲハモドキガ	アゲハモドキ				○					
	シャクガ	シロシタオビエダシャク				○					
		ツマアカナミシャク本州亜種				○					
		ヒョウモンエダシャク				○					
		フタモンクロナミシャク				○					
		トンボエダシャク				○					
		マエキナカジロナミシャク				○					
		オオトビスジエダシャク				○					
		エグリヅマエダシャク				○					
キイロエグリヅマエダシャク					○						
ウスグロノコバエダシャク					○						
シロツバメエダシャク					○						
ネグロウスベニナミシャク					○						
シロモンクロエダシャク					○						
ウスグロオオナミシャク					○						
ミヤマナミシャク					○						
イカリモンガ		イカリモンガ				○					
オビガ		オビガ		○							

表 2-3-11(7) 調査範囲内で記録されている種(昆虫) (7/8)

目名	科名	種名	文献							注目すべき種	
			1	11	12	16	20	22	23		
チョウ (鱗翅)	カレハガ	タケカレハ				○					
		クヌギカレハ		○							
	ヤママユガ	オオミズアオ				○					
		ヤママユ				○					
		ウスタビガ				○					
		ヒメヤママユ		○							
	スズメガ	クロホウジャク				○					
	シャチホコガ	タカオシャチホコ				○					
		ウチキシヤチホコ				○					
	ヒトリガ	ヒトリガ				○					
		アメリカシロヒトリ				○					
	ドクガ	ドクガ				○					
		マメドクガ				○					
		スゲオオドクガ				○					
		ブチヒゲヤナギドクガ				○					
		ヤナギドクガ				○					
		カシワマイマイ				○					
		モンシロドクガ				○					
		ヤガ	ホソアオバヤガ				○				
	オオホソアオバヤガ				○						
	タマナヤガ		○								
	カブラヤガ		○								
	コキマエヤガ					○					
	コウスベリケンモン					○					
	モモイロキンウワバ		○								
	アオバヤガ					○					
	オオアオバヤガ					○					
	タマナギンウワバ		○			○					
	ベニシタバ					○					
	イタヤキリガ		○								
	セダカモクメ					○					
	アカフヤガ		○								
	ナカオビキリガ		○								
	アケビコノハ					○					
	ホシボシヤガ		○								
	クロクモヤガ		○								
	フタオビアツバ					○					
	ウスアオキリガ		○								
	シロテンキョトウ					○					
	オオシモフリヨトウ					○					
	シロフコヤガ					○					
	タカオキリガ					○					
	オオアカマエアツバ		○								
	カバスジヤガ					○					
	キクキンウワバ		○			○					
	キイロキリガ		○								
	シロモンヤガ		○								
	キシタミドリヤガ					○					
	ハイイロキンタヤガ					○					
	コブガ	キノカワガ		○							
コウチュウ (鞘翅)	ハンミョウ	ハンミョウ				○					
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ				○				○	
	ミズスマシ	オオミズスマシ				○				○	
	ガムシ	ガムシ					○			○	
	センチコガネ	センチコガネ				○					



表 2-3-11(8) 調査範囲内で記録されている種（昆虫）（8/8）

目名	科名	種名	文献							注目すべき種
			1	11	12	16	20	22	23	
コウチュウ (鞘翅)	クワガタムシ	コクワガタ				○				
		ヒラタクワガタ本土亜種				○				
		ミヤマクワガタ				○				
		ノコギリクワガタ				○				
	コガネムシ	アオハナムグリ				○				
		マメコガネ				○				
		ムラサキツヤハナムグリ				○				
		アオカナブン				○				
	テントウムシ	カブトムシ				○				
		ナナホシテントウ				○				
	カミキリムシ	フサヒゲルリカミキリ							○	○
		ゴマダラカミキリ				○				
		ヨツスジハナカミキリ				○				
		ヒゲナガカミキリ				○				
ハムシ	キリガミネハムシ							○	○	
	ジュンサイハムシ				○					
オサゾウムシ	オオゾウムシ				○					
ハチ(膜翅)	スズメバチ	オオスズメバチ				○				
		クロスズメバチ				○				

表 2-3-12 調査範囲内で記録されている種（クモ類）

目名	科名	種名	文献		注目すべき種
			23	29	
クモ	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ	○	○	○
	コガネグモ	ヤマキレアミグモ	○		○

表 2-3-13 調査範囲内で記録されている種（貝類）

目名	科名	種名	文献			注目すべき種
			20	23	29	
基眼	モノアラガイ	モノアラガイ		○	○	○
マルスダレガイ	マメシジミ	ニホンマメシジミ	○			

## ② 注目すべき動物

注目すべき動物は、法令等の指定種に加え、「長野県版レッドリスト 動物編」（平成 27 年、長野県）、「環境省レッドリスト 2015」（平成 27 年、環境省）の指定状況を踏まえ選定した。

既往文献及び予備調査（鳥類、哺乳類）により、対象事業実施区域及びその周辺地域において確認されている注目すべき動物を表 2-3-14～2-3-21 に示す。

哺乳類では、13 種が確認されており、モモンガやヤマネなど森林性の動物も含まれる。

鳥類では、56 種の記録があり、そのうち森林性の種としては、クマタカ、オオタカ、ハイタカなども猛禽類に加え、アオバズクやサンショウクイ、ノジコなどが確認されている。種の保存法や長野県の希少野生動植物種の指定種として 6 種（オオタカ、クマタカ等）の記録がある。

両生類では、アカハライモリなど 3 種の記録がある。

爬虫類では、シロマダラ、ヒバカリなど 3 種の記録がある。

魚類では、スナヤツメ類、ニホンウナギ、ホトケドジョウなど 20 種の記録がある。

昆虫類では、森林性、草地性のチョウ類や河川や池沼に生息するトンボ類、トビケラ類、カワゲラ類の記録がある。種の保存法や長野県の希少野生動植物種の指定種として 7 種（ヒョウモンモドキ、フサヒゲルリカミキリ等）の記録がある。

その他、クモ類 2 種、貝類 1 種の記録がある。

表 2-3-14 調査範囲内で記録されている注目すべき種（哺乳類）

目名	科名	種名	選定根拠		
			文化財	環 RL	県 RL
モグラ目	トガリネズミ	ホンシュウトガリネズミ			NT
		カワネズミ			NT
	モグラ	ミズラモグラ		NT	VU
コウモリ目	ヒナコウモリ	シナノホオヒゲコウモリ			EN
		ヤマコウモリ		VU	VU
		ヒナコウモリ			EN
		ウサギコウモリ			VU
ネズミ目	リス	モモンガ	県天		NT
	ヤマネ	ヤマネ	国天		NT
	ネズミ	カヤネズミ			VU
ネコ目	クマ	ツキノワグマ			LP
	イタチ	オコジョ	県天	NT	NT
ウシ目	ウシ	カモシカ	特天		

表 2-3-15(1) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（鳥類）（1/2）

目名	科名	種名	選定根拠					
			文化財	保存	県条例	環 RL	県 RL	
カモ	カモ	ヒシクイ				VU		
		マガン				NT		
		コクガン				VU		
		アカツクシガモ				DD		
		オシドリ				DD	N	
		トモエガモ				VU	EN	
		アカハジロ				DD		
		ホオジロガモ					VU	
カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ					NT	
		ハジロカイツブリ					NT	
ペリカン	サギ	ヨシゴイ				NT	EN	
		ササゴイ					VU	
		チュウサギ				NT	NT	
		コサギ					NT	
ツル	クイナ	クイナ					DD	
		ヒクイナ				NT	CR	
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ				NT	VU	
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ					NT	
チドリ	チドリ	ケリ				DD	VU	
		シロチドリ				VU		
	シギ	ヤマシギ						DD
		オオジシギ				NT	CR	
		コシヤクシギ				EN		
		ホウロクシギ				VU		
		ツルシギ				VU		
		アカアシシギ				VU		
		アオアシシギ					VU	
		タカブシギ				VU	VU	
		キアシシギ					NT	
		ハマシギ				NT	NT	
	カモメ	コアジサシ				VU	CR	
	タカ	ミサゴ	ミサゴ				NT	EN
タカ		ハチクマ				NT	VU	

表 2-3-15(2) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（鳥類）（2/2）

目名	科名	種名	選定根拠				
			文化財	保存	県条例	環 RL	県 RL
タカ	タカ	オジロワシ	国天	国内		VU	EN
		オオワシ	国天	国内		VU	CR
		ツミ					DD
		ハイタカ				NT	VU
		オオタカ		国内		NT	VU
		クマタカ		国内	県指定	EN	EN
フクロウ	フクロウ	アオバズク					EN
		トラフズク					EN
サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	県天				
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ					VU
	ブッポウソウ	ブッポウソウ	県天		県特別	EN	CR
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内		VU	EN
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ				VU	N
	カササギヒタキ	サンコウチョウ					VU
	モズ	チゴモズ				CR	CR
		アカモズ				EN	EN
	ヨシキリ	コヨシキリ					EN
	セッカ	セッカ					CR
	ヒタキ	マミジロ					NT
		ノビタキ					NT
	ホオジロ	ホオアカ					NT
		ノジコ				NT	NT
		コジュリン				VU	CR

表 2-3-16 調査範囲内で記録されている注目すべき種（両生類）

目名	科名	種名	選定根拠	
			環 RL	県 RL
有尾	イモリ	アカハライモリ	NT	NT
無尾	アカガエル	トノサマガエル	NT	NT
		ツチガエル		VU

表 2-3-17 調査範囲内で記録されている注目すべき種（爬虫類）

目名	科名	種名	選定基準	
			環 RL	県 RL
カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	NT	VU
有鱗	ナミヘビ	シロマダラ		DD
		ヒバカリ		DD

表 2-3-18(1) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（魚類）

目名	科名	種名	選定基準		
			環 RL	県 RL	
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	VU	VU	
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	EN	EW	
コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	EN		
		ナガブナ	DD	NT	
		キンブナ	VU	NT	
		ゼニタナゴ	CR		
		ニッポンバラタナゴ	CR		
		スワモロコ	EX	EX	
		ホンモロコ	CR		
		ドジョウ	ドジョウ	DD	NT
			ホトケドジョウ	EN	VU

表 2-3-18(2) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（魚類）

目名	科名	種名	選定基準	
			環 RL	県 RL
ナマズ	アカザ	アカザ	VU	NT
サケ	アユ	アユ		CR
	サケ	ヤマトイワナ		NT
		アメマス類	DD	NT
		サクラマス(ヤマメ)	NT	NT
		サツキマス(アマゴ)	NT	NT
ダツ	メダカ	メダカ類	VU	
カサゴ	カジカ	カジカ	NT	NT
スズキ	ハゼ	ジュズカケハゼ	NT	

表 2-3-19(1) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（昆虫）（1/2）

目名	科名	種名	選定根拠			
			保存	県条例	環 RL	県 RL
カゲロウ（蜻蛉）	ヒトリガカゲロウ	ヒトリガカゲロウ			NT	DD
トンボ（蜻蛉）	エゾトンボ	オオトラフトンボ				NT
カワゲラ （セキ翅）	ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ				NT
		ミヤマノギカワゲラ				NT
トビケラ （毛翅）	ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ			NT	NT
	キタガミトビケラ	キタガミトビケラ				N
チョウ （鱗翅）	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ			EN	EN
		アカセセリ			EN	NT
		ギンイチモンジセセリ			NT	NT
		ミヤマチャバネセセリ				EN
		チャマダラセセリ			EN	CR
		スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種			NT	NT
		ヘリグロチャバネセセリ				NT
		シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ			
		ウラナミアカシジミ				NT
		クロシジミ			EN	EN
		オオゴマシジミ			NT	NT
		ゴマシジミ本州中部亜種			CR	EN
		ヒメシジミ本州・九州亜種			NT	N
		ミヤマシジミ			EN	VU
		アサマシジミ中部低地帯亜種			EN	VU
		オオルリシジミ本州亜種		県指定	CR	EN
		ムモンアカシジミ				NT
		クロツバメシジミ東日本亜種			NT	
		クロツバメシジミ				N
	タテハチョウ	コヒオドシ				
ウラギンスジヒョウモン				VU	NT	
ヒョウモンチョウ本州中部亜種				VU	NT	
オオウラギンヒョウモン				CR	CR	
オオイチモンジ			県指定	VU	NT	
コヒョウモンモドキ				EN	VU	
ヒョウモンモドキ		国内		CR	CR	
オオムラサキ				NT	N	
アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種			NT	NT	
シロチョウ	クモマツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種		県指定	NT	VU	
	ミヤマシロチョウ		県特別	VU	EN	
	ツマグロキチョウ			EN	EN	
	ヤマキチョウ			EN	EN	

表 2-3-19(2) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（昆虫）（2/2）

目名	科名	種名	選定根拠			
			保存	県条例	環 RL	県 RL
チョウ (鱗翅)	シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種			EN	VU
	ジャノメチョウ	ヒメヒカゲ本州中部亜種			CR	EN
		クモマベニヒカゲ本州亜種			NT	N
		ベニヒカゲ本州亜種			NT	N
		キマダラモドキ			NT	NT
		クロヒカゲモドキ			EN	EN
		オオヒカゲ				NT
		タカネヒカゲ八ヶ岳亜種		県特別	CR	EN
コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			VU	NT
	ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	NT
	ガムシ	ガムシ			NT	NT
	カミキリムシ	フサヒゲルリカミキリ		県特別	CR+EN	CR+EN
	ハムシ	キリガミネハムシ			CR+EN	

表 2-3-20 調査範囲内で記録されている注目すべき種（クモ類）

目名	科名	種名	選定根拠	
			環 RL	県 RDB
クモ	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ	NT	CR+EN
	コガネグモ	ヤマキレアミグモ		NT

表 2-3-21 調査範囲内で記録されている注目すべき種（貝類）

目名	科名	種名	選定根拠	
			環 RL	県 RDB
基眼	モノアラガイ	モノアラガイ	NT	NT

※選定根拠

文化財：文化財保護法

特天：特別天然記念物、国天：天然記念物、県天

保存：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

環 RL：環境省レッドリスト 2015

EX：絶滅種、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

県 RL：長野県レッドリスト（動物編（クモ類・貝類以外）（平成 26 年）

EX：絶滅種、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

県 RDB：長野県レッドデータブック（動物編（クモ類・貝類））（平成 16 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+ER：絶滅危惧Ⅰ、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、

DD：情報不足

## 2. 植物

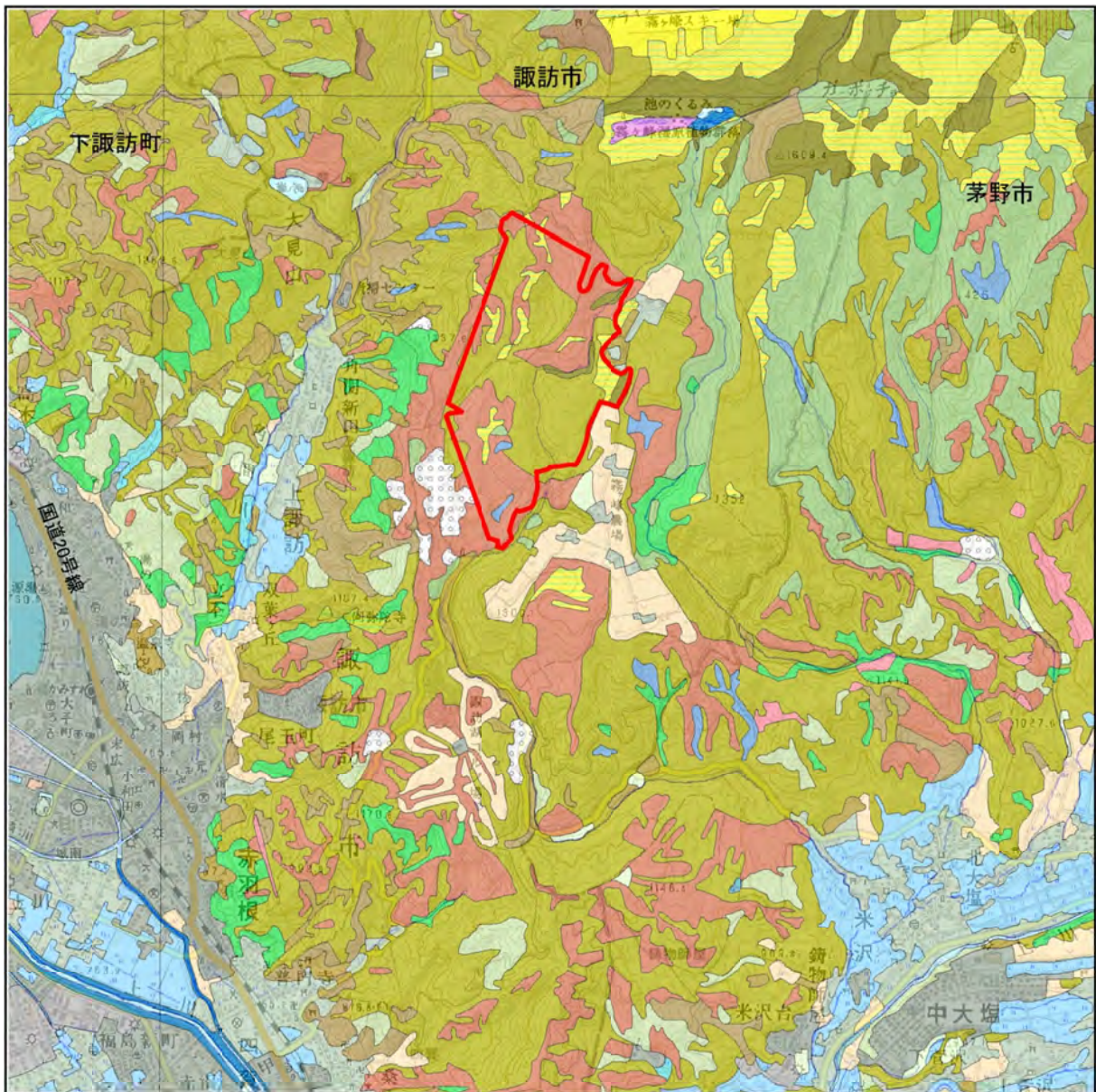
### ① 植生の概要

対象事業実施区域及びその周辺における現存植生図を図 2-2-7 に示す。

「第 6、7 回自然環境保全基礎調査植生調査」によると対象事業実施区域及びその周辺域は、大部分がカラマツ植林となっており、東側斜面を中心にミヤコザサーミズナラ群集が見られる。

また、事業区域より北側には、ツルコケモモミズゴケクラスからなる踊場湿原が存在し、その周囲には、ススキ群団やレンゲツツジズミ群集が見られる。

事業区域は、以前牧草地として利用されていたが、その後植林が行われており、現在は大部分をカラマツ植林やアカマツ群落が優占し、その一部にススキ群団やオニグルミ群落等が見られる。



凡例


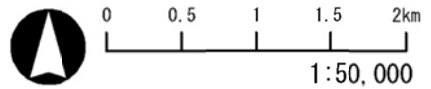
 対象事業実施区域

図 2-2-7(1)  
現存植生図

出典：自然環境保全基礎調査情報提供ウェブサイト



## 凡 例

	080100ダケカンバ群落(III)		540700カラマツ植林
	090100ササ群落(III)		540900外国産樹種植林
	170301レンゲツツジーズミ群集		540902ニセアカシア群落
	180200ヤナギ低木群落(IV)		541000その他植林
	220110フクオウソウーミズナラ群集		560200牧草地
	221103ミヤコザサーミズナラ群集		570100路傍・空地雑草群落
	221200オニグルミ群落(V)		570200果樹園
	221300ケヤキ二次林		570300畑雑草群落
	230100アカマツ群落(V)		570400水田雑草群落
	250200ススキ群団(V)		570500放棄水田雑草群落
	260000伐採跡地群落(V)		580100市街地
	410101クレーコナラ群集		580101緑の多い住宅地
	470100ツルコケモームズゴケクラス		580300工場地帯
	470200ヌマガヤオーダー		580400造成地
	470400ヨシクラス		580600開放水域
	470501ツルヨシ群集		
	470600ヒルムシロクラス		
	540100スギ・ヒノキ・サウラ植林		

図 2-2-7(2)  
現存植生図(凡例)

出典：自然環境保全基礎調査情報提供ウェブサイト



## ② 植物相の概要

対象事業実施区域及びその周辺地域の植物相について、「長野県植物誌」（平成 8 年、長野県植物誌編纂委員会）、「諏訪の自然誌 植物編」（昭和 56 年、諏訪教育委員会）、「霧ヶ峰八ヶ岳の植物」（昭和 64 年、信濃毎日新聞社）などの資料に加え、平成 25～27 年に実施した予備調査の結果を用いて整理した。

既往文献及び予備調査により、対象地域及びその周辺地域において、155 科 1940 種の植物が確認されている。なお、記録されている植物種のリストは、資料編に掲載した。

## ③ 注目すべき植物及び植物群落

注目すべき植物は、法令等の指定種に加え、「長野県版レッドリスト 維管束植物編」（平成 25 年、長野県）、「環境省レッドリスト 2015」（平成 27 年、環境省）の指定状況を踏まえ選定した。

既往文献及び予備調査により、対象事業実施区域及びその周辺地域で確認されている注目すべき植物を表 2-3-22 に示す。確認されている注目すべき植物は、260 種であった。

また、対象事業実施区域内には、長野県レッドリストで特定植物群落と選定されている「ミズゴケ群落」（総合評価 A）が分布する。湿地の位置を図 2-3-8 に示す。

### 【特定植物群落選定基準】

①保護対策の緊急性、②保護管理状態、③特異性・分布特性、④群落の希少性から総合評価し、A～D の評価基準で判定されている。総合評価 A は、最も高い基準であり、保護の緊急性を要するとされている。

表 2-3-22(1) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（植物）

科名	種名	選定根拠			
		保存法	県条例	環 RL	県 RL
ミズニラ科	ヒメミズニラ			NT	EN
	ミズニラ			NT	EN
ヒカゲノカズラ科	スギラン			VU	EN
	ヤチスギラン				NT
トクサ科	イヌスギナ				NT
ハナヤスリ科	ヒメハナワラビ			VU	NT
コケシノブ科	チチブホラゴケ				EN
チャセンシダ科	イチョウシダ			NT	NT
オシダ科	ニオイシダ				CR
	イワカゲワラビ			VU	VU
	タカネシダ			CR	EN
メシダ科	テバコワラビ			VU	N
	イヌイワデンダ			NT	
ウラボシ科	イワオモダカ				VU
サンショウモ科	サンショウモ			VU	VU
アカウキクサ科	オオアカウキクサ			VU	EN
マツ科	イラモミ				NT
	ヒメバラモミ			VU	VU
ヒノキ科	ミヤマビャクシン				VU
ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ			VU	NT
ヤナギ科	コマイロヤナギ			VU	NT
ブナ科	ナラガシワ				VU
タデ科	ハルトラノオ				NT
	ウナギツカミ				DD
	ナガバノウナギツカミ			NT	
	サデクサ				CR
	ノダイオウ			VU	N
ナデシコ科	タガソデソウ			VU	NT
	オオビランジ			NT	VU

表 2-3-22(2) 調査範囲内で記録されている注目すべき種 (植物)

科名	種名	選定根拠			
		保存法	県条例	環 RL	県 RL
ナデシコ科	ビランジ				EN
	エンピセンノウ		県指定	VU	EN
	エゾオオヤマハコベ				EN
アカザ科	イワアカザ			CR	NT
キンポウゲ科	ミチノクフクジュソウ			NT	N
	フクジュソウ				NT
	イチリンソウ				NT
	レンゲショウマ				NT
	エンコウソウ				VU
	オウレン				EN
	オキナグサ		県指定	VU	EN
	セツブンソウ			NT	VU
	マンセンカラマツ			VU	N
	シキンカラマツ				NT
	キンバイソウ				NT
マツモ科	マツモ				EN
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ				VU
	ヒメカンアオイ				NT
ボタン科	ヤマシャクヤク		県指定	NT	VU
	ベニバナヤマシャクヤク		県指定	VU	EN
オトギリソウ科	コオトギリ				DD
	ニッコウオトギリ				DD
	アゼオトギリ			VU	CR
ケシ科	ツルキケマン			VU	
	ヤマブキソウ				VU
アブラナ科	クモマナズナ			VU	NT
	ミチバタガラシ				DD
	ミギワガラシ			VU	EN
ベンケイソウ科	ムラサキベンケイソウ			VU	EN
	ツメレンゲ			NT	NT
	マルバマンネングサ				VU
ユキノシタ科	ハナネコノメ				VU
バラ科	キンロバイ		キンロバイ	VU	EN
	マメザクラ				NT
	マメナシ			VU	
	アオナシ			VU	N
	ミチノクナシ			VU	
	シロヤマブキ			VU	
	カラフトイバラ				VU
	サナギイチゴ			VU	N
	ナガボノワレモコウ				DD
	ホザキシモツケ				CR
マメ科	モメンヅル				NT
	サイカチ				NT
	レンリソウ				NT
	イヌハギ			VU	N
	ヤマフジ				EN
カタバミ科	オオヤマカタバミ			VU	NT
フウロソウ科	アサマフウロ			NT	NT
	コフウロ				EN
アマ科	マツバニンジン			CR	EN
トウダイグサ科	ノウルシ			NT	EN
	ニシキソウ				VU
	ヒトツバハギ				CR

表 2-3-22(3) 調査範囲内で記録されている注目すべき種 (植物)

科名	種名	選定根拠			
		保存法	県条例	環 RL	県 RL
ヒメハギ科	ヒナノキンチャク			VU	CR
モチノキ科	オクノフウリンウメモドキ				NT
クロウメモドキ科	ミヤマクマヤナギ				NT
シナノキ科	カラスノゴマ				NT
スマレ科	マキノスマレ				NT
ウリ科	カラスウリ				DD
ヒシ科	ヒメビシ			VU	CR
アカバナ科	ホソバアカバナ				NT
アリノトウグサ科	フサモ				NT
セリ科	エゾホタルサイコ				DD
	カワラボウフウ				CR
ツツジ科	ヒメシャクナゲ				NT
	キョウマルシャクナゲ			VU	NT
	ヒメツルコケモモ			VU	CR
	イワツツジ				CR
サクラソウ科	ギンレイカ				NT
	サクラソウ		県指定	NT	VU
	コツマトリソウ				EN
リンドウ科	オノエリンドウ			VU	NT
	コケリンドウ				CR
	ハルリンドウ				NT
	ホソバノツルリンドウ			VU	NT
	センブリ				NT
ミツガシワ科	アサザ			NT	VU
ガガイモ科	フナバラソウ			VU	VU
	スズサイコ			NT	NT
	コカモメヅル				NT
ムラサキ科	ムラサキ			VU	CR
クマツヅラ科	カリガネソウ				NT
シソ科	カイジンドウ			VU	NT
	ツルカコソウ			VU	NT
	マネキグサ			NT	VU
	メハジキ				NT
	キセワタ			VU	N
	ヤマジソ			NT	NT
	ナツノタムラソウ				DD
	エゾタツナミソウ				VU
	エゾナミキソウ				CR
ナス科	オオマルバノホロシ				VU
ゴマノハグサ科	サワトウガラシ				NT
	アブノメ				CR
	ゴマノハグサ			VU	EN
	オオヒナノウスツボ				NT
	ヒキヨモギ				NT
	ヒヨクソウ				NT
	イヌノフグリ			VU	VU
	キツネノマゴ科	ハグロソウ			
タヌキモ科	イヌタヌキモ			NT	NT
	ミミカキグサ				VU
	ホザキノミミカキグサ				EN
	コタヌキモ				CR
	タヌキモ			NT	CR
	ヒメタヌキモ			NT	VU
	ヤチコタヌキモ			VU	CR

表 2-3-21(4) 調査範囲内で記録されている注目すべき種 (植物)

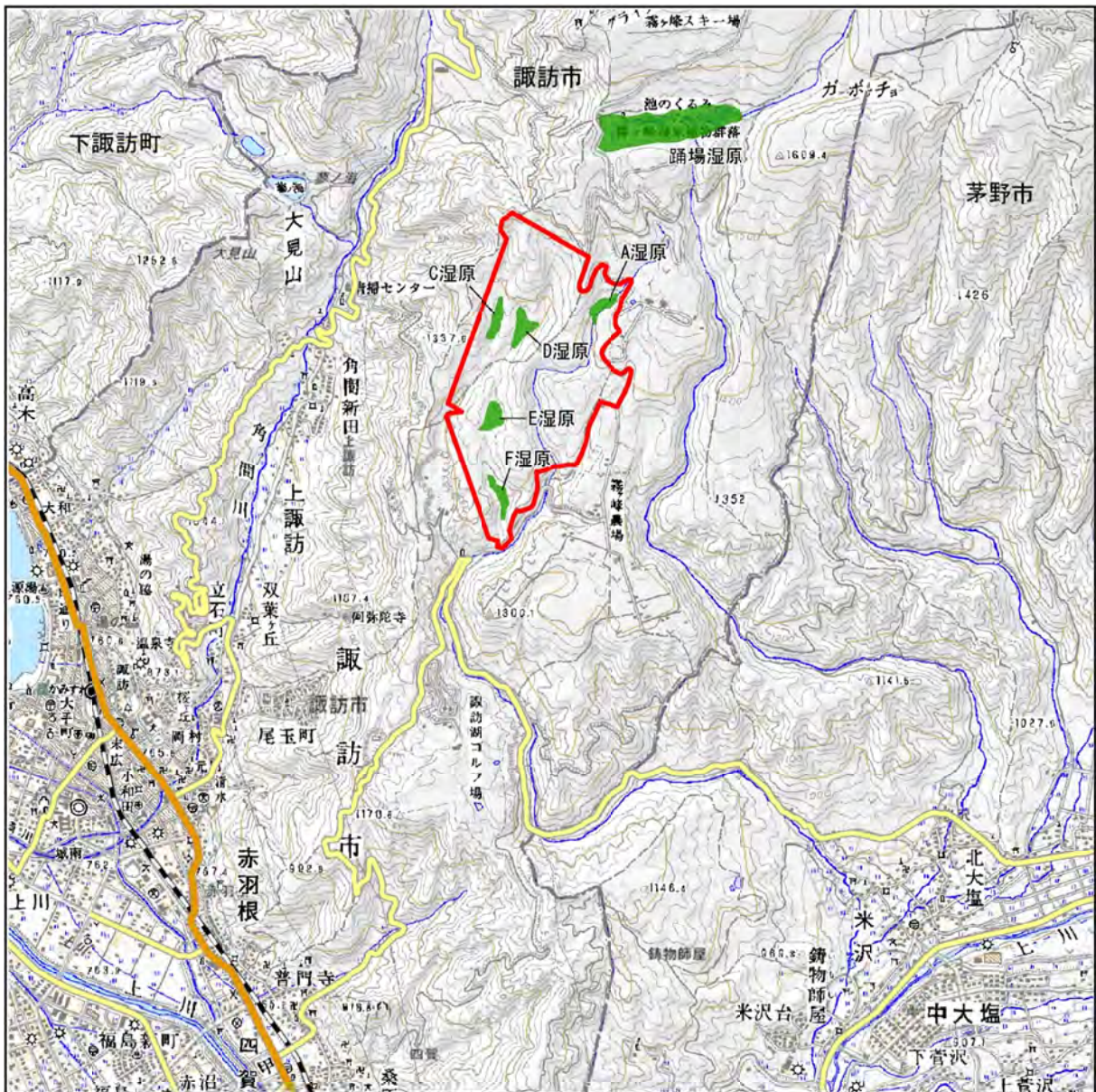
科名	種名	選定根拠			
		保存法	県条例	環 RL	県 RL
タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ			NT	VU
スイカズラ科	クロミノウグイスカグラ				VU
スイカズラ科	コゴメヒョウタンボク			VU	NT
	ツクヌキソウ		県指定	VU	VU
キキョウ科	バアソブ			VU	N
	キキョウ			VU	NT
キク科	キセルアザミ				VU
	アズマギク				VU
	フジバカマ			NT	
	アキノハハコグサ			VU	NT
	スイラン				EN
	タカサゴソウ			VU	VU
	ミヤマヨメナ				VU
	オオニガナ				NT
	ミヤコアザミ				NT
	ネコヤマヒゴタイ			VU	
	ヒメヒゴタイ			VU	VU
	コウリンカ			VU	N
	オナモミ			VU	VU
オモダカ科	サジオモダカ				CR
	トウゴクヘラオモダカ			VU	
	アギナシ			NT	EN
トチカガミ科	ヤナギスブタ				NT
	クロモ				CR
	トチカガミ			NT	EX
	ミズオオバコ			VU	VU
	セキショウモ				EN
ヒルムシロ科	イトモ			NT	VU
	エゾヤナギモ				CR
	コバノヒルムシロ			VU	VU
	センニンモ				EN
	ササバモ				EN
	ホソバミズヒキモ				NT
	ヤナギモ				VU
	ヒロハノエビモ				VU
イバラモ科	イバラモ				CR
	トリゲモ			VU	CR
	オオトリゲモ				CR
ユリ科	ヒメアマナ			VU	CR
	ユウスゲ				NT
	ヤマユリ		県指定		NT
	ササユリ		県指定		NT
	ホソバノアマナ				NT
ミズアオイ科	ミズアオイ			NT	CR
アヤメ科	カキツバタ			NT	NT
	キリガミネヒオウギアヤメ			VU	CR
イグサ科	クモマスズメノヒエ			NT	
ホシクサ科	クロイヌノヒゲモドキ			VU	VU
	ホシクサ				VU
	オオムラホシクサ			VU	VU
イネ科	コウヤザサ				NT
	オニノガリヤス				CR
	チシマガリヤス				CR
	ヤマムギ				CR

表 2-3-22(5) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（植物）

科名	種名	選定根拠			
		保存法	県条例	環 RL	県 RL
イネ科	イヌカモジグサ			VU	VU
	エゾムギ			CR	NT
	ヒロハノハネガヤ				EN
	アワガエリ				CR
	アワガエリ				CR
	イトイチゴツナギ				EN
	タチイチゴツナギ			VU	
	フォーリーガヤ			CR	EN
サトイモ科	ウラシマソウ		県指定		VU
ミクリ科	オオミクリ			VU	CR
	ミクリ			NT	VU
	ナガエミクリ			NT	EN
	ヒメミクリ			VU	EN
カヤツリグサ科	ハタバスゲ			VU	EN
	ヌマクロボスゲ			VU	
	トマリスゲ				EN
	ホソバオゼヌマスゲ			NT	NT
	ホロムイクグ			VU	CR
	エゾツリスゲ				EN
	マメスゲ				VU
	イトヒキスゲ			VU	CR
	ツルカミカワスゲ				EN
	イッポンスゲ				CR
	エゾハリスゲ			VU	VU
	サヤスゲ			VU	CR
	エゾサワスゲ			NT	EN
	クグガヤツリ				NT
	ヌマガヤツリ				EN
	アオガヤツリ				NT
	スジヌマハリイ			VU	EN
	クロヌマハリイ				EN
	ヒメヒラテンツキ				NT
	シズイ				VU
コシンジュガヤ				VU	
ラン科	ミスズラン			CR	CR
	キンセイラン			VU	CR
	ホテイラン		県特別	VU	CR
	ギンラン				NT
	キンラン		県特別	VU	EN
	コアツモリソウ		県指定	NT	CR
	クマガイソウ		県特別	VU	CR
	アツモリソウ	国内	県特別	VU	CR
	イチヨウラン				NT
	キリガミネアサヒラン			VU	CR
	トラキチラン			VU	CR
	ヒメミヤマウズラ				NT
	ミズトンボ			VU	VU
	ギボウシラン			VU	
	タカネフタバラン				EN
	ホザキイチヨウラン				NT
	アリドオシラン				NT
	サカネラン			VU	CR
	ミヤマフタバラン				VU
	カモメラン			NT	EN

表 2-3-22(6) 調査範囲内で記録されている注目すべき種（植物）

科名	種名	選定根拠			
		保存法	県条例	環 RL	県 RL
ラン科	オノエラン				EN
	ウチョウラン			VU	EN
	コハクラン			CR	CR
	コケイラン				NT
	ヒロハトンボソウ			VU	EN
	ミズチドリ		県指定		NT
	マンシュウヤマサギソウ				VU
	オオバノトンボソウ				NT
	コバノトンボソウ				NT
	トキソウ		県指定	NT	VU
	ヤマトキソウ				EN
	ヒトツボクロ				NT
	ツレサギソウ				CR
	キバナノショウキラン			VU	
	ショウキラン				VU

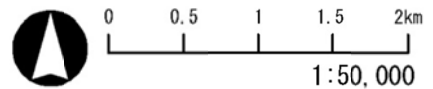


凡例

- 対象事業実施区域
- 湿原

図 2-3-8  
湿原の位置

出典：「メガソーラー発電事業に伴う環境調査及び環境保全対策の検討報告書」（株式会社 Loop）



④ 植物の天然記念物等

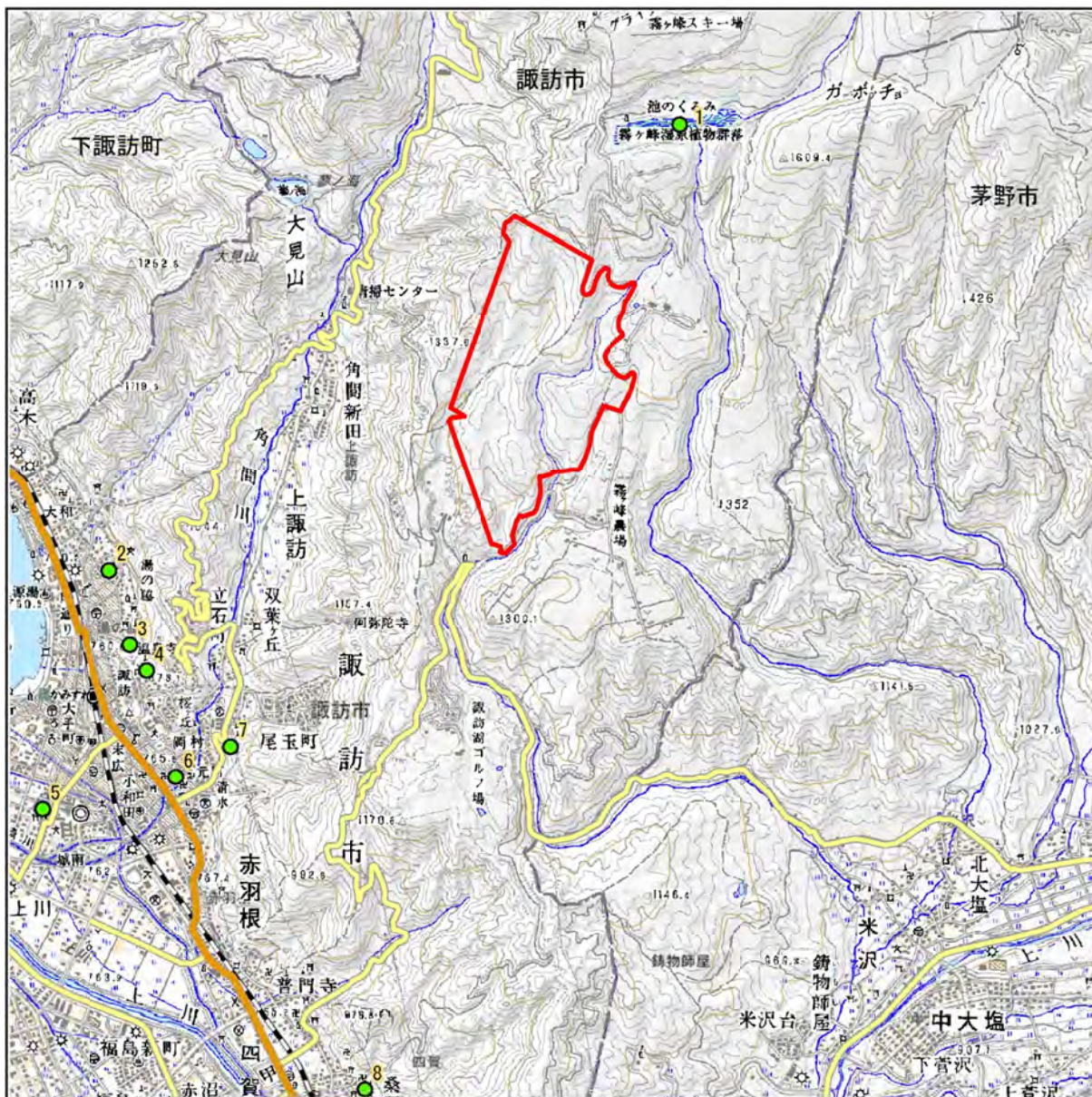
対象事業実施区域及びその周辺における植物に係る天然記念物の分布状況を表 2-3-23 及び図 2-3-9 に示す。対象事業実施区域及びその周辺では、7 件が指定されている。

表 2-3-23 植物に係る天然記念物の状況

区分	No	名称	指定	所在地
諏訪市	1	霧ヶ峰湿原植物群落	国指定	霧ヶ峰
	2	先の宮のケヤキ	市指定	先の宮神社
	3	温泉寺の枝垂桜		温泉寺
	4	手長の森		上諏訪茶臼山
	5	高島城のフジ		高島 1
		高島城のキハダ		高島 1
	6	貞松院のシダレザクラ		貞松院
	7	地藏寺庭園		地藏寺
8	仏法寺イチョウ	仏法紹隆寺		

出典：諏訪市ウェブサイト、茅野市ウェブサイト「天然記念物一覧」



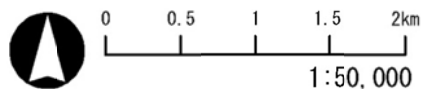


凡例

- 対象事業実施区域
- 天然記念物

図 2-3-9  
植物に係る天然記念物等の分布状況

出典：諏訪市ウェブサイト、茅野市ウェブサイト  
「天然記念物一覧」



### 3. 生態系

対象事業実施区域及びその周辺地域は、主にカラマツ植林、アカマツ林、落葉広葉樹林などの森林となっている。また、対象事業実施区域より北側には、ツルコケモモミズゴケクラスからなる踊場湿原が存在し、その周囲には、霧ヶ峰の草地（ススキ群団やレンゲツツジズミ群集）が見られる。

対象事業実施区域内には、小河川が流れ、河川周辺には湿地も存在する。また、本地域は、かつては牧草地として利用されており、その後、植林されて現在の環境となっている。周辺に霧ヶ峰の草地や湿地に近い場所に位置していることから、動植物については共通の種が生息、生育する可能性がある。

対象事業実施区域における生態系としては、既往文献及び予備調査を踏まえると、植林区域を含む森林とその林床、一部に見られる草地と湿地に生育する草本類を生産者とし、第一次消費者として、バッタ類やチョウ類等の草食性昆虫、ノウサギ、ホンドジカ等の哺乳類、第二次消費者としては、トンボ類等の肉食性昆虫類やカエル類が生息すると想定される。

第三次消費者としては、小型の鳥類やコウモリ類、ヘビ類が生息する。最上位の消費者としては、肉食の中型哺乳類（キツネやテン）、猛禽類等が位置づけられる。

また、河川には、生産者として藻類等、第一次消費者としては、草食性の水生昆虫類（カゲロウやトビケラ等）、第二次消費者としては肉食性の水生昆虫類（カワゲラやトビケラ等）、最上位の消費者としては、イワナ等の魚類、ハコネサンショウウオ等の両生類が存在することが想定される。

### 3-5 自然環境の総合的な状況

対象事業実施区域のある諏訪市一帯は、盆地にあるため気温の較差が大きく、降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地である。また年間を通して晴天が多く、国内でも有数の日照時間が多い地域となっている。

対象事業実施区域は、霧ヶ峰火山の山腹に位置しており、南向きの緩斜面上に位置している。

主たる水系は、対象事業実施区域の南側を流れる上川である。上川は茅野市の八ヶ岳丸山に源を発し、東から西に流下して諏訪湖に注ぐ。

対象事業実施区域及びその周辺は代償植生によって占められ、アカマツ群落とカラマツ植林が優占している。

### 3-6 景観・文化財の状況

#### 1. 景観

##### ① 自然景観資源

「第3回自然環境保全基礎調査—長野県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）によると、対象事業実施区域及びその周辺における自然景観資源を表2-3-24に示す。

対象事業実施区域の北側に位置する霧ヶ峰は、台地上の火山性高原である。草原が維持された雄大な高原の風景は、長野県を代表する景観の一つでもある。霧ヶ峰高原からは、諏訪盆地と諏訪湖、そして八ヶ岳連峰、富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプス等の山並みの眺望が得られる、展望効果の高い場所である。

表 2-3-24 自然景観資源

区 分	自然景観資源名
火山性高原（台地状）	霧ヶ峰
湿原	霧ヶ峰湿原
	池のくるみ湿原

出典：「第3回自然環境保全基礎調査—長野県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）

##### ② 主要な眺望景観

不特定かつ多数の人が利用している主要な眺望点を、表2-3-25及び図2-3-10に示す。本事業は周囲よりも高い場所に位置していること、対象事業区域が約188haと広いことから、通常の景観の調査対象となる3kmよりも広い範囲を対象とした。

予備調査として可視領域の解析を行った結果、表2-3-24に示す地点ではNo.1、8、9を除く6地点は対象事業実施区域方面を眺望することができないことを確認した。したがって、景観の調査地点としては眺望が得られる3地点を対象とする。

表 2-3-25 主要な眺望地点の状況

地点番号	名 称	眺望の可否
1	霧ヶ峰農場	○
2	霧ヶ峰スキー場	×
3	諏訪湖カントリークラブ	×
4	諏訪市湖畔公園	×
5	高島城	×
6	北大塩	×
7	諏訪大社上社	×
8	中央道諏訪湖サービスエリア	○
9	岡谷市諏訪湖畔公園	○

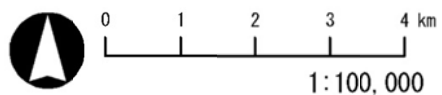


凡 例

- 対象事業実施区域
- 主要な眺望点
- 可視範囲
- 高速道路
- 一般国道

図 2-3-10  
主要な眺望地点

注) 可視範囲は、対象事業実施区域の上部で尾根上にあたる、最も見えやすい場所が見える範囲を示す。



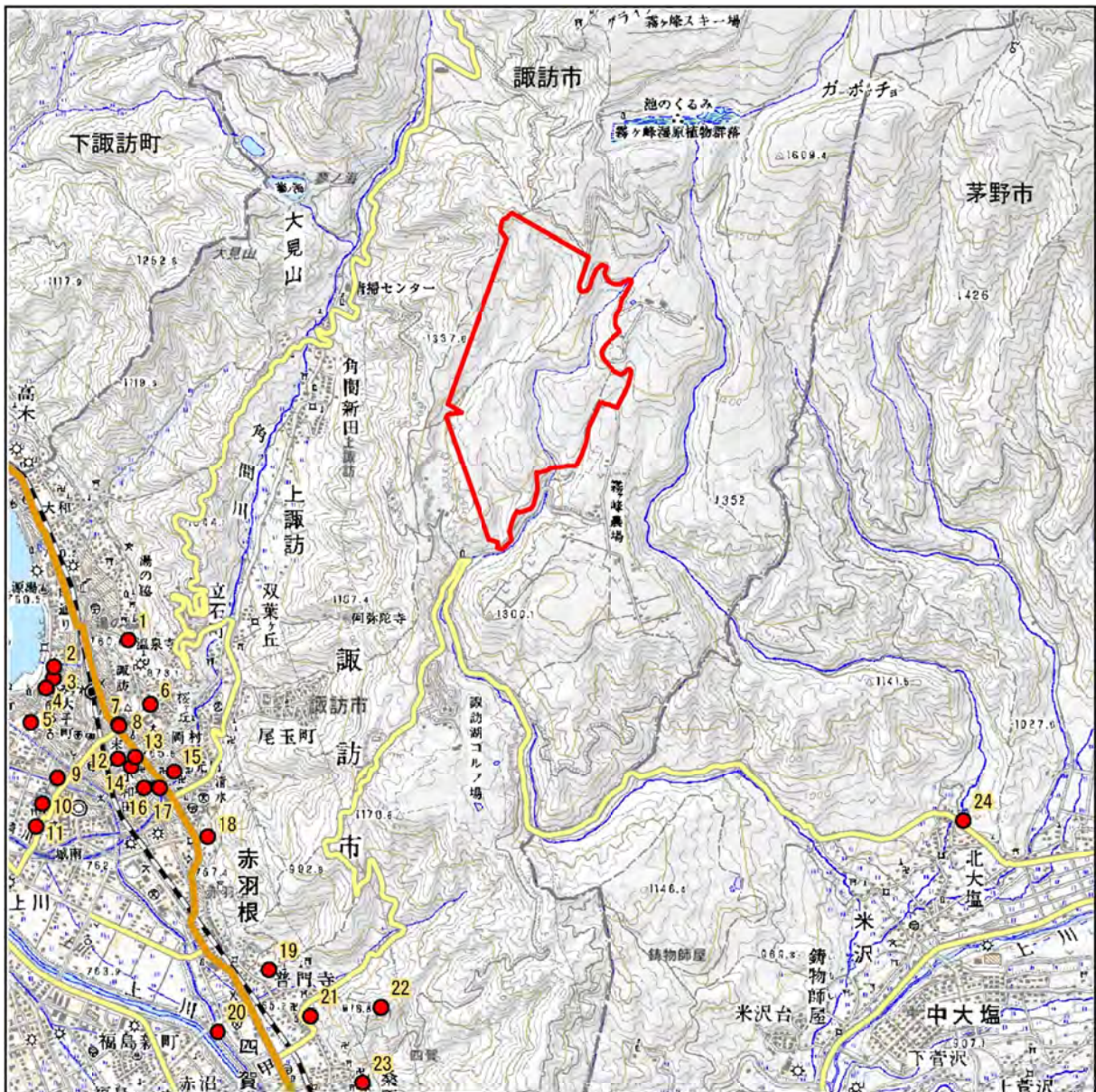
### ③ 文化財

対象事業実施区域及びその周辺における、埋蔵文化財を除く指定文化財等を表 2-3-26 に、その分布状況を図 2-3-11 に示す。なお、動植物に係る文化財については、「3-4 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況」に記載した。また、対象事業実施区域及びその周辺の埋蔵文化財を表 2-3-37 に、分布状況を図 2-3-12 に示す。埋蔵文化財はこの予備調査の範囲は、「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」（平成 19 年、長野県）に準じて、対象事業実施区域及びその周囲 1km 程度を含む範囲とした。

表 2-3-26 文化財等の指定状況（埋蔵文化財以外）

区分	No	所在地	指定名称	指定区分			種類
				国	県	市	
諏訪市	1	温泉寺	温泉寺梵鐘		○		県宝
			指月庵庭園（温泉寺隠寮庭園）			○	名勝
			高島藩主廟所・鉄塔・舍利塔・木造地藏菩薩坐像・本堂の能舞台遺構・山門・鏡坂			○	有形文化財
	2	片倉館	片倉館・会館・渡廊下・浴場	○			重要文化財
	3	湖岸通り 4	諏訪市美術館（旧懐古館）	○			登録有形文化財
	4	湖岸通り 4	諏訪湖ホテル迎賓館・菊の間	○			登録有形文化財
	5	湖岸通り 5	諏訪市文化センター（旧北澤会館）	○			登録有形文化財
	6	手長神社	手長神社拝殿・旧本殿			○	有形文化財
	7	諏訪 1	三村貴金属店店舗	○			登録有形文化財
	8	諏訪 1	ブライダル染花みむら店舗	○			登録有形文化財
	9	高島 1	丸高蔵店舗・吉沢蔵・鯉沢蔵	○			登録有形文化財
	10	高島 1	高島城本丸の堀と石垣			○	史跡
	11	高島 1	志賀家住宅			○	有形文化財
	12	教念寺	絹本著色羅漢像	○			重要文化財
	13	諏訪 2	上町の木芯漆喰著色道祖神と神輿			○	有形文化財
	14	甲立寺	甲立寺木造愛染明王坐像			○	有形文化財
	15	貞松院	貞松院殿墓地・松平忠輝墓地			○	史跡
			貞松院木造不動明王立像・木造毘沙門天立像			○	有形文化財
	16	八剣神社	八剣神社木造狛犬 A・B			○	有形文化財
	17	諏訪 2	桑原町南町の道祖神の社			○	有形文化財
	18	清水町 1	清水町秋葉神社境内の清水と施設			○	史跡
	19	岩久保観音堂	岩久保観音堂			○	有形文化財
	20	白狐稲荷神社	白狐稲荷神社			○	有形文化財
21	足長神社	足長神社本殿・拝殿・舞屋			○	有形文化財	
22	四賀	諏訪氏城跡桑原城		○		史跡	
23	仏法紹隆寺	絹本著色釈迦十六善神・木造普賢菩薩騎象像・木造不動明王立像		○		県宝	
		仏法寺庭園			○	名勝	
茅野市	24	米沢北大塩	駒形遺跡	○			史跡

出典：諏訪市ウェブサイト「指定文化財一覧」、茅野市ウェブサイト「文化財一覧」



凡例

- 対象事業実施区域
- 指定文化財等

図 2-3-11  
指定文化財等の分布状況

出典：諏訪市ウェブサイト「指定文化財一覧」、  
茅野市ウェブサイト「文化財一覧」

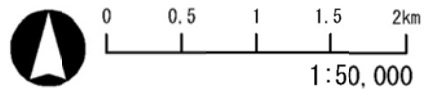
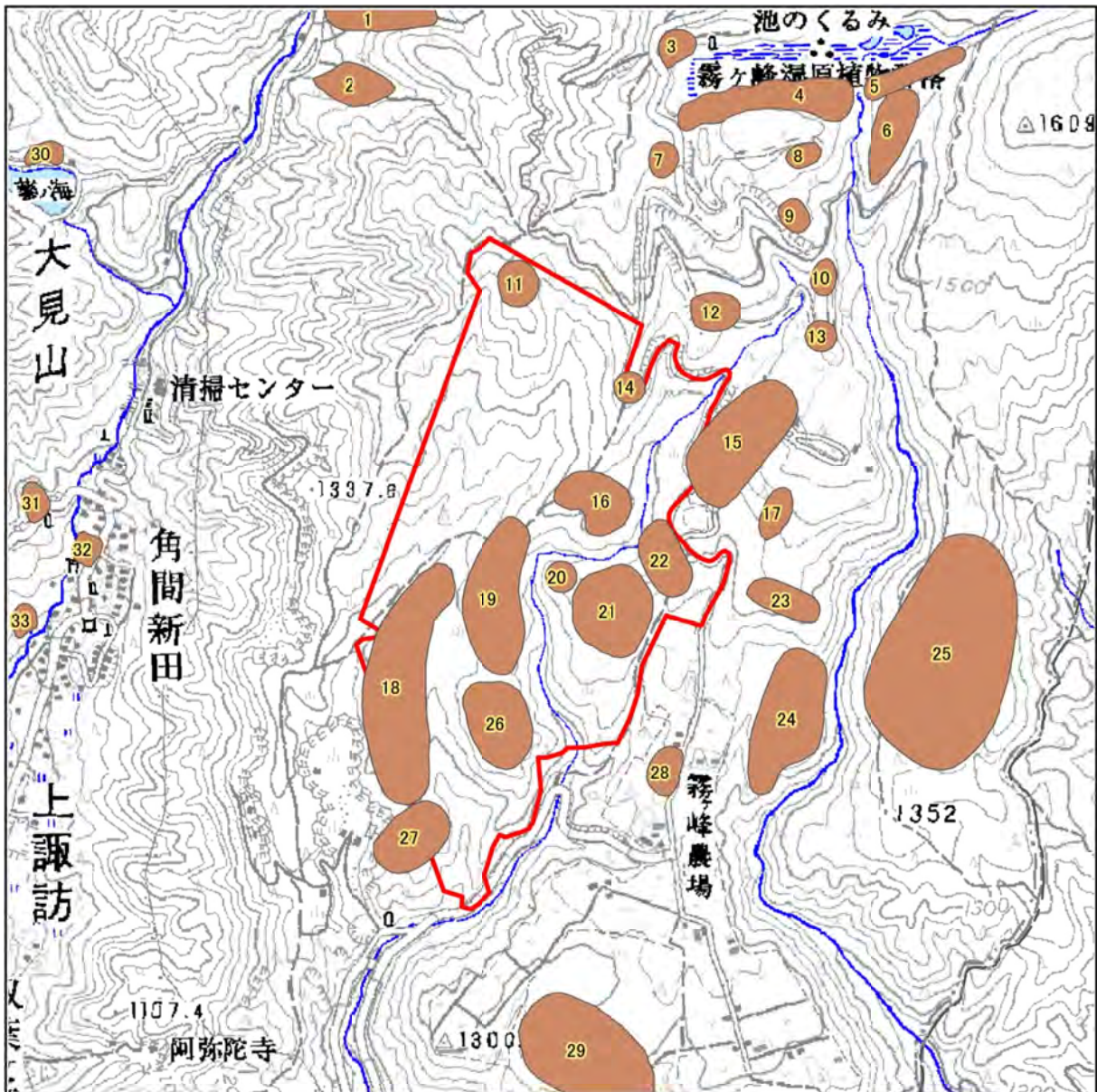


表 2-3-27 埋蔵文化財の状況

区分	No	遺跡名
諏訪市	1	沢渡り B
	2	細久保
	3	池のくるみ A
	4	池のくるみ B
	5	池のくるみ C
	6	ジャコッパラ No. 23
	7	ジャコッパラ No. 12
	8	ジャコッパラ No. 15
	9	ジャコッパラ No. 16
	10	ジャコッパラ No. 8
	11	ジャコッパラ No. 18
	12	ジャコッパラ No. 6
	13	ジャコッパラ No. 7
	14	ジャコッパラ No. 2
	15	ジャコッパラ No. 1
	16	ジャコッパラ No. 3
	17	ジャコッパラ No. 17
	18	ジャコッパラ No. 20
	19	ジャコッパラ No. 4
	20	ジャコッパラ No. 9
	21	ジャコッパラ No. 10
	22	ジャコッパラ No. 11
	23	ジャコッパラ No. 14
	24	ジャコッパラ No. 13
	25	ジャコッパラ No. 21
	26	ジャコッパラ No. 5
	27	ジャコッパラ No. 19
	28	霧ヶ峰農場
	29	ジャコッパラ No. 22
	30	蓼ノ海
	31	先の宮団地
	32	山の神
	33	ミサゴ

出典：「諏訪市遺跡分布図」（2015年、諏訪市）

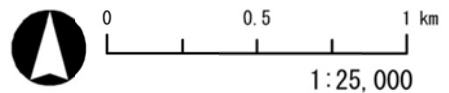


凡例

- 対象事業実施区域
- 埋蔵文化財

図 2-3-12  
埋蔵文化財の分布状況

出典：「諏訪市遺跡分布図」





### 3-7 触れ合い活動の場の状況

諏訪市は、八ヶ岳中信高原国定公園や諏訪湖などの豊かな自然に囲まれていることから、自然との触れ合い活動の場は豊富である。

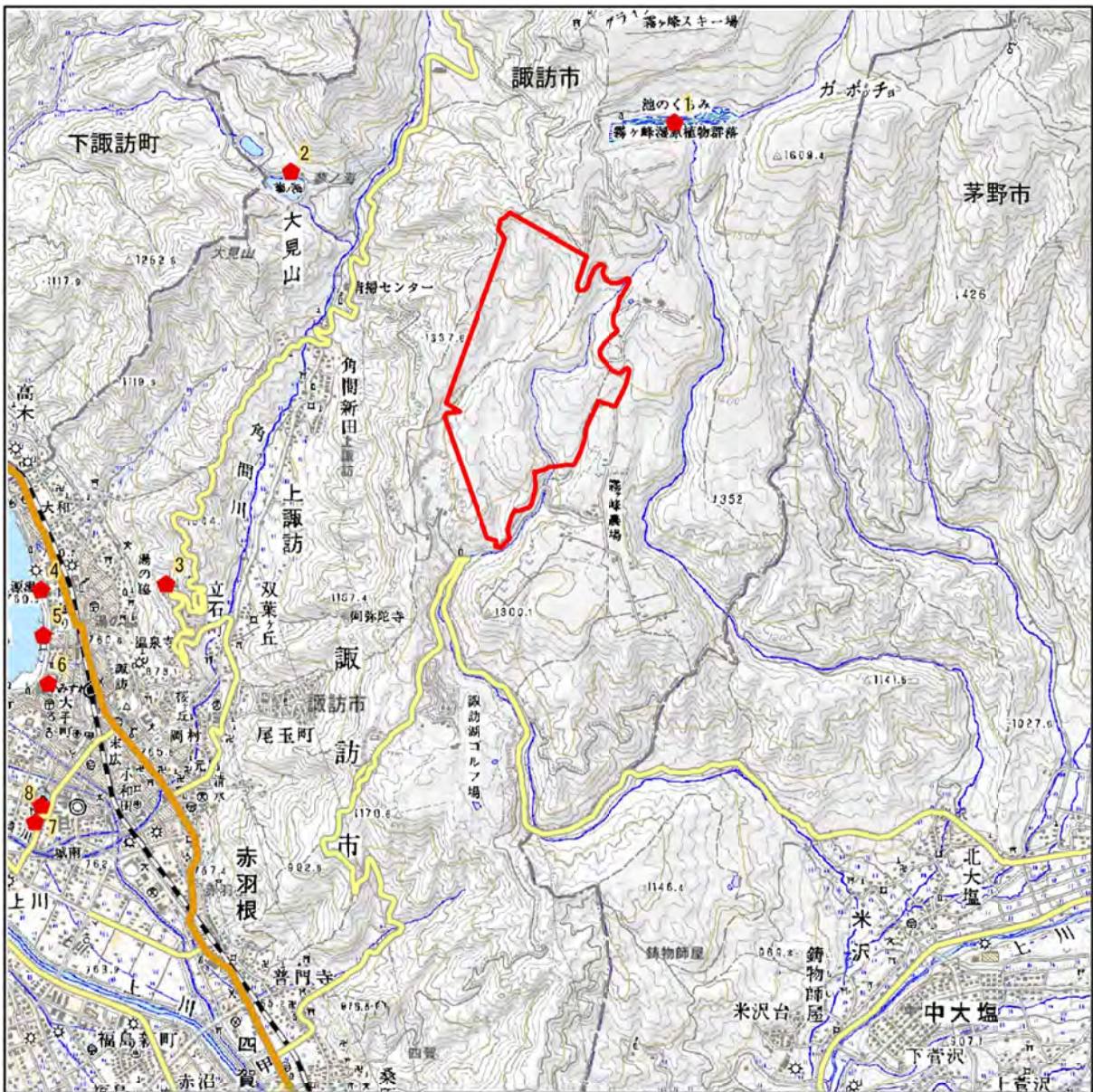
対象事業実施区域及びその周辺における主な触れ合い活動の場を表 2-3-28 並びに図 2-3-13 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、霧ヶ峰湿原、蓼の海公園、立石公園、湖畔公園などが主な触れ合い活動の場として位置づけられる。

表 2-3-28 主な触れ合い活動の場

区分	No	名称
諏訪市	1	霧ヶ峰湿原
	2	蓼の海公園
	3	立石公園
	4	湖畔公園足湯
	5	諏訪湖遊覧船乗り場
	6	諏訪市湖畔公園
	7	高島公園
	8	文学の道公園

出典：諏訪市ウェブサイト・茅野市ウェブサイト「観光情報」「公園情報」



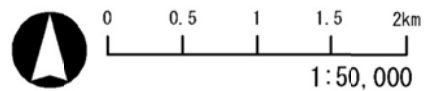
凡例

対象事業実施区域

● 触れ合いの場

図 2-3-13  
 主な触れ合いの活動の場の  
 分布状況

出典：諏訪市ウェブサイト・茅野市ウェブサイト  
 「観光情報」「公園情報」



### 3-8 大気・水質の状況

#### 1. 大気質

長野県が実施している一般環境大気測定局における測定結果を以下に示す。

対象事業実施区域の近傍に測定局はないが、諏訪測定局（長野県諏訪合同庁舎）が最も近い測定局として位置づけられる。

#### ① 二酸化硫黄

諏訪局における平成 25 年度の二酸化硫黄の測定結果を表 2-3-29 に示す。年平均値は 0.004ppm、日平均値の 2%除外値は 0.007ppm であった。また、平成 21 年度～平成 25 年度の年平均値の経年変化を図 2-3-14 に示す。各年とも年平均値は 0.004ppm 以下であった。諏訪局では、短期的評価、長期的評価とも環境基準を達成している。

表 2-3-29 二酸化硫黄の測定結果（平成 25 年度）

測定局	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		一時間値の最高値 (ppm)	日平均値の 2% 除外値 (ppm)
				(時間)	(%)	(日)	(%)		
諏訪	346	8,450	0.004	0	0.0	0	0.0	0.034	0.007

注 1) 環境基準の長期的評価は、年間における日平均値の測定値の高い方から 2%の範囲にあるものを除外して行う。ただし、日平均値が 0.04ppm を超える日が 2 日以上連続した場合には、評価せず、環境基準未達成とする。

注 2) 環境基準は、1 時間値の 1 日平均が 0.04ppm 以下であり、かつ、一時間値が 0.1ppm 以下であること。

出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」（長野県環境部水大気環境課）

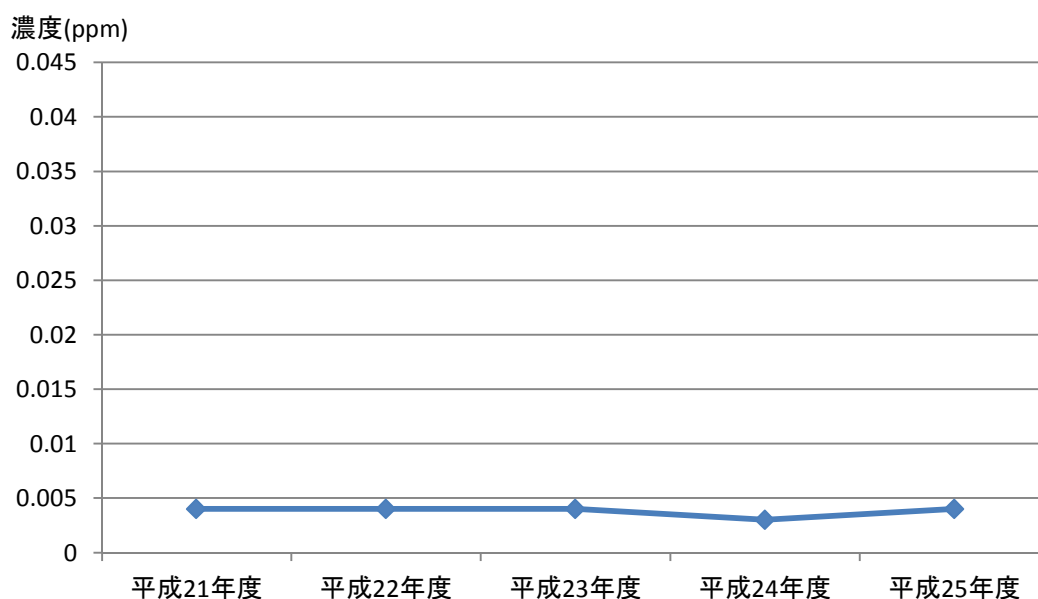


図 2-3-14 二酸化硫黄の年平均値の推移

## ② 二酸化窒素

諏訪局における平成 25 年度の二酸化窒素の測定結果を表 2-3-30 に示す。年平均値は 0.008ppm、日平均値の年間 98%値は 0.025ppm であった。また、平成 21 年度～平成 25 年度の年平均値の経年変化を図 2-3-15 に示す。各年とも年平均値は 0.012ppm 以下であった。諏訪局では、短期的評価、長期的評価とも環境基準を達成している。

表 2-3-30 平成 25 年度二酸化窒素の測定結果

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値の年間 98%値
	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)
諏訪	359	8,686	0.008	0.054	0	0.0	0	0.0	0.025

注 1) 環境基準は、1時間値の1日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

注 2) 環境基準の長期的評価では、年間における日平均値の測定値の低い方から 98%に相当するものが 0.06ppm 以下の場合は、環境基準が達成されたと評価する。

注 3) 県の環境保全目標は、年平均値が 0.020ppm 以下であること。

出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」（長野県環境部水大気環境課）

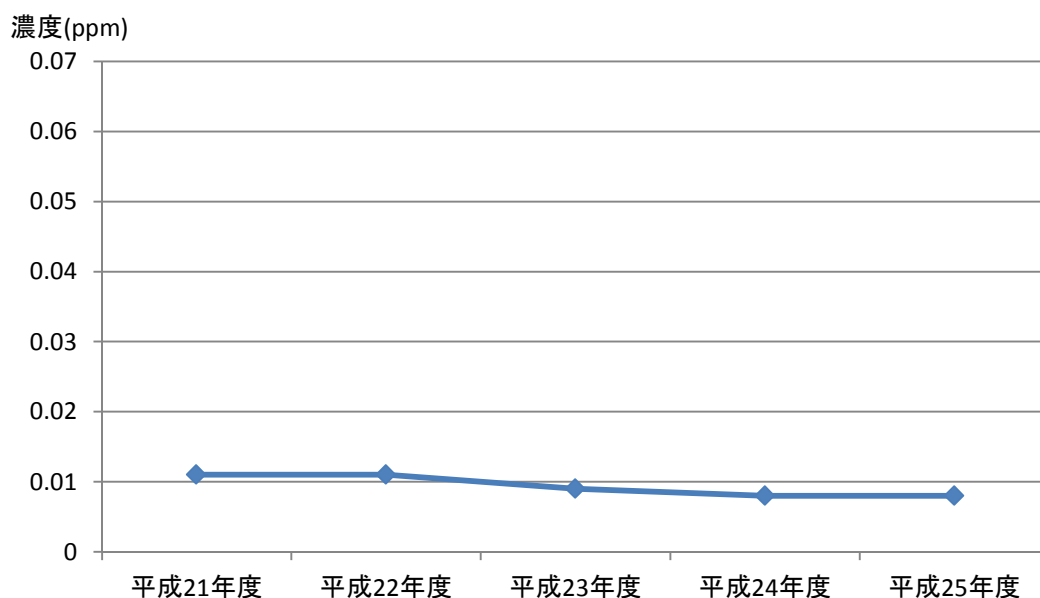


図 2-3-15 二酸化窒素の年平均値の推移

### ③ 浮遊粒子状物質SPM

諏訪局における平成 25 年度の浮遊粒子状物質の測定結果を表 2-3-31 に示す。年平均値は 0.014ppm、日平均値の 2%除外値は 0.031ppm であった。また、平成 21 年度～平成 25 年度の年平均値の経年変化を図 2-3-16 に示す。各年とも年平均値は 0.016ppm 以下であった。諏訪局では、短期的評価、長期的評価とも環境基準を達成している。

表 2-3-31 平成 25 年度浮遊粒子状物質の測定結果

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均の 2% 除外値	日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が連続
	(日)			(時間)	(時間)	(%)	(日)			
諏訪	361	8,679	0.014	0	0.0	0	0.0	0.074	0.031	○

注 1) 環境基準の長期評価は、年間における日平均値の測定値の高い方から 2% の範囲にあるものを除外して行う。ただし、日平均値が 0.10mg/m<sup>3</sup> を超える日が 2 日以上連続した場合には、評価せず、環境基準未達成とする。  
 注 2) 環境基準は 1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m<sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m<sup>3</sup> 以下であること。  
 出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」(長野県環境部水大気環境課)

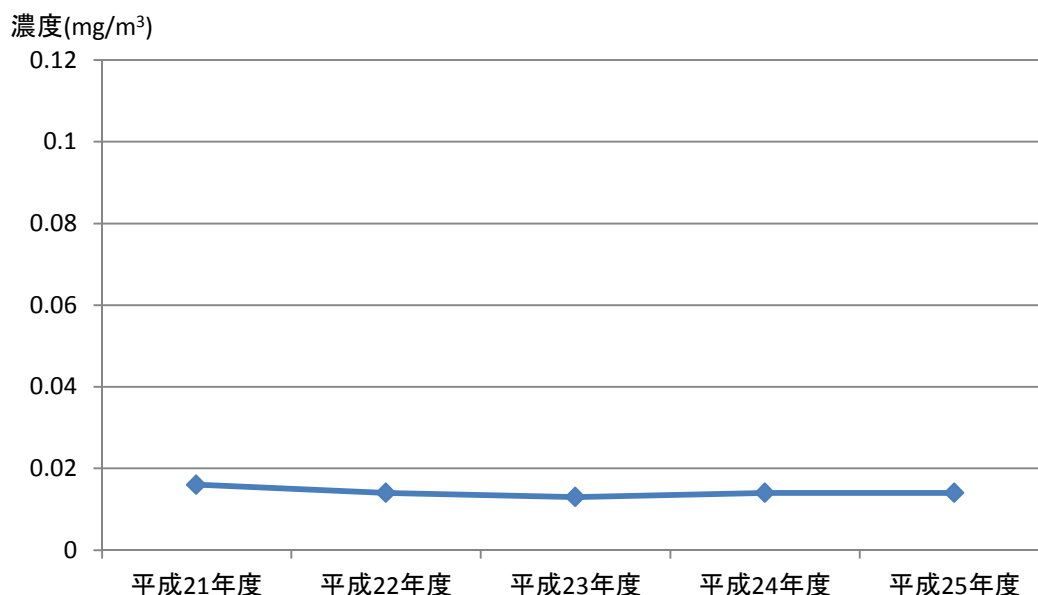


図 2-3-16 浮遊粒子状物質の年平均値の推移

### ④ 光化学オキシダント

諏訪局における平成 25 年度の光化学オキシダントの測定結果を表 2-3-321 に示す。昼間の 1 時間値が 0.06ppm (環境基準) を超えた日は 36 日あり、環境基準を達成していない。また、平成 21 年度～平成 25 年度の年平均値の経年変化を図 2-3-17 に示す。諏訪局における光化学オキシダントの年平均値は概ね横ばいである。

表 2-3-32 平成 25 年度光化学オキシダントの測定結果

測定局	昼間測定日数	昼間測定時間数	昼間の 1 時間値の平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数及び時間数		昼間の 1 時間値の最高値
	(日)			(時間)	(日)	(時間)	(日)	
諏訪	365	5,440	0.034	36	182	0	0	0.083

注 1) 環境基準は 1 時間値 0.06ppm 以下であること。  
 注 2) 昼間値とは 5 時から 20 時までの時間内のこと。  
 出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」(長野県環境部水大気環境課)

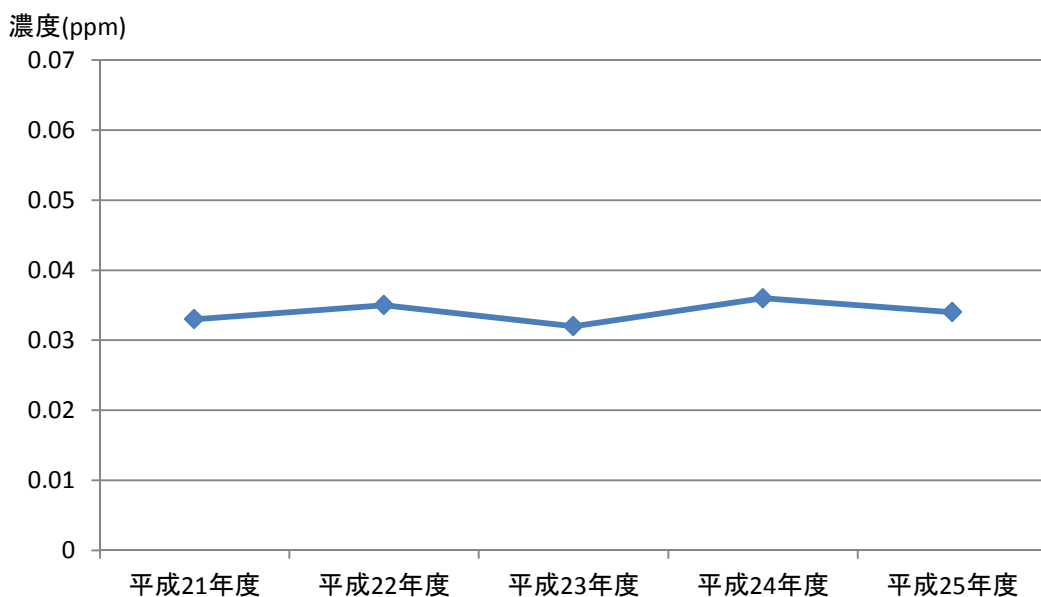


図 2-3-17 光化学オキシダントの年平均値(昼間の1時間値の平均値)の推移

### ⑤ 有害大気汚染物質

諏訪局における平成 25 年度の有害大気汚染物質の測定結果(年平均値)を表 2-3-33 に示す。

諏訪局では、大気環境基準が設定されている項目のうち、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンについて測定されているが、全ての項目について、環境基準を達成している。

また、指針値が設定されている項目のうち、アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及び化合物、ヒ素及びその化合物、ニッケル化合物、1,3-ブタジエン、マンガン及びその化合物について測定されているが、全ての項目について、指針値を下回っている。

その他の項目では、諏訪局では、塩化メチル、クロム及びその化合物、トルエン、ベリリウム及びその化合物について測定されている。

表 2-3-33(1) 平成 25 年度有害大気汚染物質の測定結果(年平均値)

測定局	ジクロロエタン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	テトラクロロエチレン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	トリクロロエチレン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	ベンゼン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
諏訪局	2.0	0.11	2.5	0.86
環境基準	150	200	200	3

出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」(長野県環境部水大気環境課)

表 2-3-33(2) 平成 25 年度有害大気汚染物質の測定結果(年平均値)

測定局	アクリロニトリル ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	塩化ビニルモノマー ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	クロロホルム ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	1,2-ジクロロエタン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	水銀及びその化合物 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	ヒ素及びその化合物 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	ニッケル化合物 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	1,3-ブタジエン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	マンガン及びその化合物 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
諏訪局	0.089	0.013	0.24	0.17	0.0021	0.0011	0.0016	0.12	0.0010
指針値	2	10	18	1.6	0.04	0.006	0.025	2.5	0.14

出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」(長野県環境部水大気環境課)

表 2-3-33(3) 平成 25 年度有害大気汚染物質の測定結果(年平均値)

測定局	塩化メチル ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	クロム及びその化合物 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	トルエン ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	ベリリウム及びその化合物 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
諏訪局	1.5	0.0015	2.7	0.000014

出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」(長野県環境部水大気環境課)

⑥ ダイオキシン類

諏訪局では、大気中のダイオキシン類を測定しており、「平成 25 年度大気汚染等測定結果」（長野県環境部水大気環境課）によると、最近の測定結果では、平成 23 年度の年平均値が 0.012pg-TEQ/m<sup>3</sup>であり、環境基準（年平均 0.6pg-TEQ/m<sup>3</sup>）を達成している。

⑦ 微小粒子状物質

諏訪局における平成 25 年度の微小粒子状物質の測定結果を表 2-3-34 に示す。

年平均値は 9.5 μg/m<sup>3</sup>、日平均値の年間 98%値は 29.0 μg/m<sup>3</sup>であり、環境基準を達成している。

表 2-3-34 平成 25 年度微小粒子状物質の測定結果

測定局名	平均値	環境基準の評価			
		日平均値の 98%値	日平均値が 35 μg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその割合	○:達成 ×:未達成	
	μg/m <sup>3</sup>	μg/m <sup>3</sup>			
諏訪	9.5	29.0	2	0.6	○

注 1) 環境基準は年間の平均値が 15 μg/m<sup>3</sup>以下であり、且つ 1 日平均値の年間 98%値が 35 μg/m<sup>3</sup>以下であること。  
出典：「平成 25 年度大気汚染等測定結果」（長野県環境部水大気環境課）

## 2. 騒音

### ① 騒音の状況

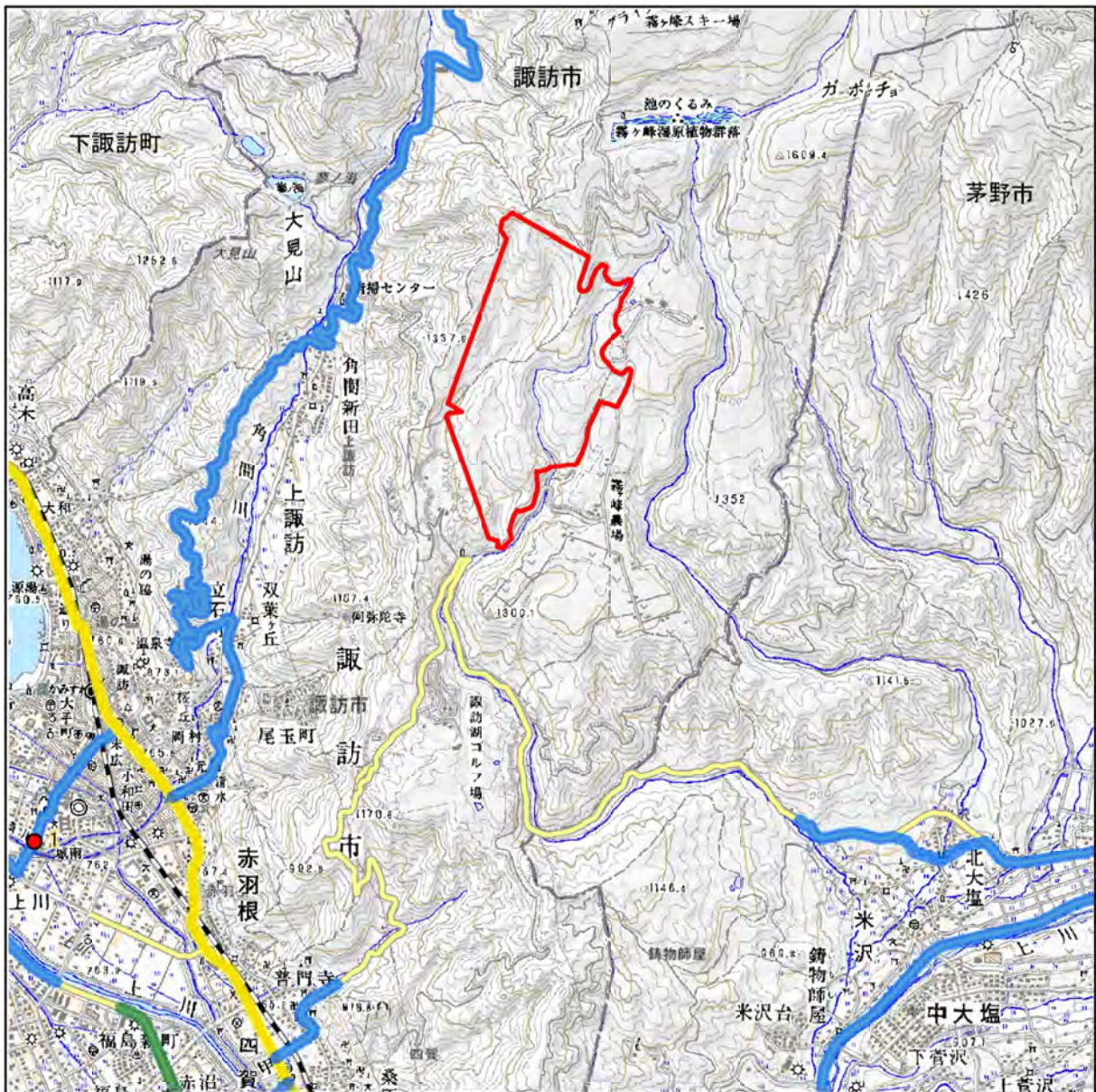
対象事業実施区域周辺において、諏訪市又は茅野市が実施した平成25年度の自動車騒音測定結果を表2-3-35に、測定地点を図2-3-18に示す。環境基準が定められている地域の地点においては、いずれの地点でも環境基準を達成している。

表2-3-35 自動車交通騒音の測定結果（平成25年度）

路線名	用途地域	測定地点	環境基準 類型	時間 区分	等価騒音 レベル ( $L_{Aeq}$ :dB)	環境基準		要請限度	
						基準値 (dB)	適合 状況	基準値 (dB)	適合 状況
岡谷 茅野線	地域の区分が 定められてい ない地域	諏訪市 大字 豊田	X	昼間	65	—		—	
				夜間	62	—		—	
岡谷 茅野線	第一種第二種 住宅地域、準 住宅地域	諏訪市 大字中 洲	B	昼間	70	70	達成	75	達成
				夜間	67	65	超過	70	達成
一般 国道 20号	第一種第二種 中高層住居専 用地域	茅野市 宮川	C	昼間	65	70	達成	75	達成
				夜間	62	65	達成	70	達成
中央自 動車道 西宮線	近隣商業地域 商業地域	茅野市 宮川	C	昼間	65	70	達成	75	達成
				夜間	57	65	達成	70	達成
上槻木 矢ヶ崎 線	第一種第二種 中高層住居専 用地域	茅野市 玉川	X	昼間	66	—		—	
				夜間	58	—		—	
神ノ原 青柳停 車場線	地域の区分が 定められてい ない地域	茅野市 玉川	X	昼間	66	—		—	
				夜間	55	—		—	

出典：「平成25年度大気汚染等測定結果」（長野県環境部水大気環境課）





凡例

対象事業実施区域

● 騒音調査地点

環境基準達成状況(%)

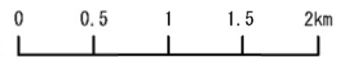
■ 95-100

■ 80-95

■ 60-80

図 2-3-17  
道路騒音調査地点及び  
自動車騒音の常時監視結果

出典：国立環境研究所ウェブサイト「環境展望台」



1:50,000

### 3. 水質

対象事業実施区域周辺においては、長野県による公共用水域における水質測定は行われていない。

対象事業実施区域からもっとも至近の環境基準点は、対象事業実施区域の南側を流れる上川における測定地点（渋崎橋）であり、参考までに本地点における水質測定結果を表 2-3-36 に示す。平成 26 年度の河川の環境基準達成状況は、生物化学的酸素要求量 (BOD)、水素イオン濃度 (pH)、浮遊物質量 (SS) については環境基準を達成しているが、溶存酸素量 (DO) 及び大腸菌群数については環境基準を達成していない。

また茅野市が実施している上川及び茅野横河川での水質調査結果を表 2-3-37 に示す。平成 27 年度の調査結果では、大腸菌群数を除く項目で環境基準を達成している。

表 2-3-36 河川水質調査結果（環境基準点）

類型 指定 水域 名	測 定 地 点	類 型	BOD(mg/L)		pH	DO(mg/L)		SS(mg/L)		大腸菌群数 (MPN/100mL)	
			75% 値	年 平 均 値	(最小値～ 最大値)	(最小値～ 最大値)	年 平 均 値	(最小値～ 最大値)	年 平 均 値	(最小値 ～最大 値)	年平均 値
上川	渋 崎 橋	A	0.8	0.8	7.4～7.7	<u>7.2</u> ～14	10	1～8	3	180～ <u>66,000</u>	6,900

出典：平成 26 年度水質大気化学物質測定結果（長野県）

注 1) 下線は環境基準を超える値 (pH は環境基準値の範囲外の値) であることを示す。

注 2) A 類型の環境基準値は以下の通りである。

BOD:2mg/L 以下 PH:6.5 以上、8.5 以下 DO:7.5mg/L 以上 SS:25mg/L

大腸菌群数:1000MPN/100mL 以下

表 2-3-37 河川水質調査結果（茅野市による調査）

測定地点	測定結果	測定項目			
		pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
上川上流 塩沢大橋	平均値	7.6	0.9	4.4	1,700
茅野横河川 米沢台入口	(pH は範囲)	7.4	1.1	6.4	4,300

出典：茅野市ホームページ 平成 27 年度市内河川水質検査結果

注 1) 下線は環境基準を超える値 (pH は環境基準値の範囲外の値) であることを示す。

注 2) A 類型の環境基準値は以下の通りである。

BOD:2mg/L 以下 PH:6.5 以上、8.5 以下 DO:7.5mg/L 以上 SS:25mg/L

大腸菌群数:1000MPN/100mL 以下